

盛岡の子どもたちに 「夢」と「誇り」と「志」を

●令和6年度版●

「盛岡の先人教育」実践事例



藩校「作人館」を引き継ぐ 仁王小学校日影門校舎

(明治初期)

盛岡市教育委員会

令和6年度版 「盛岡の先人教育」実践事例集

目 次

- 1 盛岡市立本宮小学校
- 2 盛岡市立太田小学校
- 3 盛岡市立太田東小学校
- 4 盛岡市立大宮中学校
- 5 盛岡市立北厨川小学校
- 6 盛岡市立城北小学校
- 7 盛岡市立月が丘小学校
- 8 盛岡市立北陵中学校

大宮中学校区【本宮小学校】先人教育全体計画

【児童の実態】 ・素直で、指示されたことに対しては取り組むことができる。 ・他者とコミュニケーションをとりながら学んでいく力は不十分である。
【地域の実態】 ・学校は文化施設や商業施設に囲まれ、恵まれた環境にある。 ・地域環境や人材が豊かである。
【保護者の願い】 ・優しさと思いやりをもち、他と協力し合う気持ちを育てたい。 ・目標に向かって前向きにねばり強く取り組もうとする気持ちを育てたい。 ・変化の激しい社会を生きるためのたくましさを育てたい。

【盛岡市の先人教育】 盛岡にゆかりがある先人（原敬、新渡戸稲造、米内光政、石川啄木、金田一京助など）の生き方を学ぶことを通して、時代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育むこと。 ○より良い価値を思考していこうとする豊かな心の育成。 ○郷土の自然の美しさ、高い文化、人々のあたたかさ、ふるさと盛岡への誇り。
【大宮中学校区 めざす子ども像】 郷土に誇りと愛着をもち、志をもって行動する児童、生徒
【本宮小学校 学校教育目標】 「校訓」人に尽くして見返りを求めない ○明るく ○かしこく ○たくましく
【本宮小学校 めざす子ども像】 令和の社会を生きる豊かな子ども ・思いやりのある明るい子ども ・進んで学習するかしこい子ども ・体をきたえるたくましい子ども

盛岡市第2期 推進計画より
【授業について】 ・小中学校の系統性を踏まえた先人の生き方を学ぶ授業 ・先人の各記念館の訪問、講話 ・授業実践資料の有効活用
【時代や思いに触れる体験】 ・先人カレンダーの掲示 ・先人コーナーの設置 ・一筆啓上への取組 ・先人ゆかり給食
【教員の研修】 ・長期休業中の研修
【大宮中学校区 キャリア教育目標】 豊かな関わり合いを通して社会性や協調性、感性を育み、夢と希望をもって、生き生きとした生活を創造していこうとする意欲や態度を育てる。

	各教科・特別の教科道徳	生活科・総合的な学習の時間	特別活動
1年	・道徳「お正月」	・どきどきわくわく1ねんせい ・たのしさいっぱいたんけんたい	・先人給食 ・先人カレンダーの掲示 ・先人を学ぶコーナーの設置 ・開校記念集会
2年	・道徳「見つけたよ」	・どきどきわくわくまちたんけん	
3年	・社会「わたしたちのまちと市」 ・道徳「フローレンス・ナイチンゲール物語」 「鬼太郎をかいいたゲゲさん」	・「本宮ハッピープロジェクト」 ～お年寄りともっといっしょにもっとなかよくえがおに～	
4年	・国語「短歌、俳句に親しもう」 ・社会「郷土の開発 鹿妻穴堰」 ・副読本「盛岡の先人」 ・道徳「石っこけんさん 宮沢賢治」	・「本宮のみりよく発信プロジェクト」 ～みんなに伝えよう本宮さんさ踊り隊～ ～大切に守り伝えよう伝統文化広める隊～	・地域の施設活用（原敬記念館の見学） ・わんぱく原敬塾 ・「子どもと話そう～親子の架け橋・一筆啓上～」
5年	・国語「古典の世界」「やなせたかし」 ・副読本「盛岡の先人」 ・図工「原敬生家写真会」 ・道徳「太平洋のかけ橋 新渡戸稲造」 ・音楽「まちぼうけ」	・「本宮小お祝いプロジェクト」	
6年	・国語「やまなし」「天地の久」 ・副読本「盛岡の先人」 ・音楽「おぼろ月夜」「花」 ・道徳「マザーテレサ」「未来への裁判」 「どれい解放の父 リンカン」	・「本宮地域『宝積』プロジェクト」 ～人と人をつなぐスマイルスタンプラリー～ ～地域をつなげるフリーペーパー本宮発信局～	

学 校 名	盛岡市立本宮小学校	児童数	536 名
研究主題	郷土に誇りと愛着をもち、志をもって行動する児童・生徒の育成		

1 研究主題設定の理由

盛岡市教育基本計画における「目指す市民像」は、「多くの先人を育んできた美しいふるさと岩手を愛し、豊かな心と健やかな体をもち、自ら学び共に生きる未来を創る人」である。この「めざす市民像」に迫るために、盛岡の先人を中心として、盛岡の歴史や文化、自然や風土を生かした盛岡らしい教育の具現化を図るものとして「盛岡の先人教育」推進計画を策定し、推し進めることとしている。

本校の校訓「宝積」は、本校に大変縁の深い「原敬」座右の銘であり、「人に尽くして見返りを求めない」という意味がある。本校では、人との関わりの中で、「児童に心の宝物をたくさん積ませたい」という願いのもと、教育理念としてきた。

そこで、原敬をはじめ身近な地域の先人にも目を向け、様々な関わりを通して、その生き方や考え方を学ぶことで、地域愛を育み、夢や希望に向かって努力する児童を育成するため本主題を設定した。

2 研究の目標

- ・岩手にゆかりのある先人や困難に立ち向かう人々の生き方を学ぶことを通して、様々な価値にふれ、宝積の心を育てる。
- ・多くの先人を育んできた郷土について、自然の美しさや高い文化、人々のもつあたたかさを知り、ふるさと盛岡への誇りをもつ。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ・生活科・総合的な学習の時間を通して、多様な他者との協働による創造を生む経験を積むことで、宝積を育む。
- ・自分たちの住む地域の魅力を調べる活動を通して、地域の魅力に気づき、発展を願って自分たちにできることを考え取り組む。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・中学校区での「盛岡の先人教育」の目標、実践の視点の明確化等の方向性を確認し、実践にあたる。
- ・大宮中学校区の実践内容をもとに、先人教育を通して目指す生徒像、先人教育全体計画とその具体についての改善と共通理解を図る。
- ・先人教育を行う切り口は様々であっても、9年間を見通した系統的な指導の道筋を互いに確認し、さらに推し進めていけるようにする。

4 取組の概要

単元名	たのしい あき いっぱい～みつけたあきで あそぼう～	学年	1 学年
-----	----------------------------	----	------

(1) ねらい

- ・秋の自然を見付けたり、秋の自然と遊んだりする活動を通して、自然の様子を比べたり、自然物を使った遊びを工夫したりして、季節の変化や自然物を利用した遊びの面白さに気付く。
- ・自然物を利用した遊びにより、生活を楽しんだり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができる。

(2) 指導計画

段 階	内 容
①どんなあきがみつかるかな (10 月/6 時間)	・季節の移り変わりに目を向け、秋探検の計画を立てる。 ・校庭で秋を探す。 ・盛南公園で秋を探す。 ・秋探検を振り返る。
②あきとあそぼう (10 月/7 時間)	・集めた自然物で遊んでみる。 ・比べたり、たとえばたり、試したり、見通したりしながら、 ・秋の自然物の素材や特徴を生かした遊びを創り出す。 ・自分たちが創り出した遊びを集めて、秋のわくわくランドを開く。
③あきのわくわくランドをたのしもう (11 月/8 時間)	・園児を特別招待しての秋のわくわくランドの準備をする。 ・園児と一緒に秋のわくわくランドを楽しむ。 ・秋のわくわくランドを振り返る。

(3) 活動の様子

- ①季節の移り変わりに目を向けさせるために、校庭や盛南公園、盛岡市中央公園へ出かけ、秋探しを行った。松ぼっくりをはじめ、どんぐりや赤い実など秋の宝物を見付け、大喜びする子どもたちの姿が見られた。地域にある自然の豊かさに親しませながら、春から夏、秋への変化を実感させることができた。



- ②試行錯誤を繰り返しながら、集めた秋の宝物の素材や特徴を生かした遊びを創り出したことで、同じ素材を使っても、異なる遊びが生まれる面白さへと気付きを広げることができた。自分たちが創り出した遊びを集め、「秋のわくわくランド」を開催し、みんなで遊ぶことで、自然や人との関わりの楽しさにひたることができた。



- ③関わる人としての対象を園児へと広げた。園児が楽しむことができるように、遊びを変身させた後、近隣の「よつば子ども園」の年長児を特別招待し、再度「秋のわくわくランド」を開催した。地域の人や自然との関わりを深めることができた。

(4) 考察

- ・秋探しをする場所を校庭だけではなく、学校そばの盛南公園や盛岡市中央公園まで足をのばしたことで、地域の自然に目を向けた活動の充実を図ることができた。
- ・集めた秋の宝物を用いて自分たちで遊びを創り出し、「秋のわくわくランド」を開催したことで、みんなで遊ぶと遊びがより楽しくなることを実感させることができた。
- ・自分たちが創り出した遊びの面白さから、関わる人としての対象を地域の園児に広げたことで、秋の自然と触れ合ったり、みんなで遊んだりすると生活が楽しくなることを実感させることができた。

単元名	本宮ハッピープロジェクト ～お年よりともしっかりに もっとなかよく もっとえがおに～	学年	3 学年
-----	--	----	------

(1)ねらい

地域に住んでいる高齢者との交流を通して、高齢者の思いや生きがいを知り、世代を超えて共に仲良く交流することの大切さに気付き、よりよく関わるができるようにする。

(2)指導計画（総合的な学習 70 時間）

段 階	内 容
5 月～6 月（10 時間）	「本宮に住んでいる人を知ろう」 ・本宮に住んでいる人について話し合う。 ・高齢者が増えていることを知る。 ・本宮の高齢者について話を聞く。（本宮地区民生委員）
7 月～11 月（40 時間）	「地域のお年寄りと交流しよう」 ・各学級で交流する先を決めて交流する。 （老人ホーム、デイサービス、地区高齢者サロン等） ・交流を振り返り、よりよい交流に向けて話し合う。 ・高齢者（キャップハンディ）体験をする。（社会福祉協議会） ・よりよい交流に向けて話し合い、交流する。（3～4 回）
12 月～3 月（20 時間）	「お年寄りをもっと笑顔にしよう」 ・高齢者に思いを伝える方法を考え、準備する。 ・思いを伝える。

(3)活動の様子

①地域のことをよく知っている民生委員さん（3名）に来校していただき、各地区での高齢者の現状について情報提供していただいた。本宮地区の高齢者の人数や割合、さらに高齢者の置かれている状況について視点を広げた。一人暮らしのお年寄りが多いこと、元気なお年よりは老人クラブや地区のサロンに通い、体の弱いお年よりはデイサービスに行ったり訪問介護を受けたりしていること、さらに家族と離れて老人ホームで暮らしている人もいることを知った。

②民生委員さんのお話をもとに、学級ごとに高齢者との交流について話し合い、訪問する施設等を決めた。実際に訪問して見学やインタビューをし、交流をした。各学級3～4回繰り返した。老人ホームで交流している学級は途中、高齢者のキャップハンディ体験を行い、相手の立場をより理解して交流しようと努めた。元気な高齢者と交流した学級は、サロンの見学を経て、学校に来校していただいて、昔の遊びや趣味を一緒に楽しむ活動を行った。



(4)考察

自分たちの住んでいる地域の「人」に着目し、いつも優しく声をかけてくれる高齢者と世代を超えて関わりをもつことができた。交流することで、今まで「してもらおう」ことが主だった高齢者との関わりが、「一緒に～する」「自分たちができることをする」という意識になっていった。自分たちが住む地域を、「人」という観点から見えて関わって、よさに気付くとともに愛着を深めることができた。



単元名	本宮魅力発信プロジェクト ～みんなに伝えよう本宮さんさ踊り隊～	学年	4 学年
-----	------------------------------------	----	------

(1)ねらい

自分たちの住む地域の伝統芸能「大宮さんさ」保存会の人々と協働して「大宮さんさ」の魅力を調べたり、体験したり、伝えたりする活動を通して、地域で生まれ受け継がれてきた伝統文化のよさに気づき、地域の発展を願って自分たちにできることを考え、「大宮さんさ」を生かした町づくりに積極的に関わることができるようにする。

(2)指導計画（総合的な学習の時間 70 時間）

段 階	内 容
6～7 月（18 時間）	『本宮の魅力を見つけよう』 ・「大宮さんさ」について調べる。 ・「お宮さんさ」に詳しい人（大宮さんさ保存会の方）からお話を聞く。
8～12 月（46 時間）	『本宮の魅力について調べ、発信しよう』 ・「大宮さんさ」を習う。 ・「大宮さんさ」の魅力を発信する。 ・他地域の伝統さんさを習い、比較する。
1～3 月（6 時間）	『本宮の魅力を発信して考えたことをまとめよう』 ・活動を振り返り、「大宮さんさ」について学んだことをまとめ、発信する。

(3)活動の様子

- ①今年の総合的な学習の時間のテーマとして、本宮小 150 周年記念の大運動会に地域の方々と一緒に踊ったさんさ踊りに着目し、その魅力を調べていくことにした。自分たちで調べられることには限界があることに気付いた子どもたちは、大宮さんさ踊り保存会の方からお話を聞き、本宮に伝わる伝統芸能「大宮さんさ」について詳しく教えていただいた。
- ②お話を聞くだけでは本当の「大宮さんさ」の魅力は分からないと考えた子どもたちは、実際に「大宮さんさ」を習ってその魅力を追究することにした。大宮さんさ踊り保存会の方に何度か来校していただきさんさ修行を行い、踊って感じたことや新たに出来た疑問に答えをいただきながら、「大宮さんさ」の魅力をまとめ、地域の行事で発表した。次に、発表した時にいただいた地域の皆様からの声をもとに「大宮さんさ」の魅力を深く知るため、他地域の伝統さんさと比較してやることにした。他地域でも同じように、自分たちの地域に伝わる伝統さんさを誇りに思い活動している方々との出会いがあった。他地域のさんさ踊りを習う中で、子どもたちは、地域に伝わる伝統芸能の素晴らしさや守り伝えていくことの大切さに気付くことができた。



(4)考察

「さんさ踊りを踊る」という活動を通して、大宮さんさ踊り保存会の方や本宮地域住民の方々、他地域で伝統さんさを守る活動をしている方々などたくさんの人と接することができた。踊りを習得する難しさや長い年月守り伝えてきたことの偉大さ、実際に活動している人の努力や地域住民のもつ地域への期待や願いなど、たくさんの思いに触れることで、子どもたち自身の中にもいろいろな感情が生まれ、地域に伝わる伝統文化への誇りや、自分たちの住んでいる本宮地域への思いが深まる活動となった。

単元名	先人から学び、自分の生き方を考えよう	学年	5 学年
-----	--------------------	----	------

(1)ねらい

- ・地域の先人である原敬について学ぶことを通して、原敬の座右の銘であり、本校の校訓である「宝積」の価値や意義についての理解を深め、宝積の意識を深める。
- ・盛岡の先人の生き方や偉業について調べる活動を通して、未来に向けた自己の生き方を見つめる機会とする。

(2)指導計画（17 時間）

段 階	内 容
4 月～2 月 朝活動	【朝のあいさつ運動の実践】 当番を決め、交代であいさつ運動に取り組む活動を通して、全校のために行動する意識を育てる。
6 月 (3 時間)	【一筆啓上の取組】 「盛岡の先人」を読み、自分が興味をもった先人の生き方やその功績について、感想をまとめる。
7 月 (2 時間)	【地域の先人に学ぶ①】 原敬記念館の方による「わんぱく原敬塾」での学習を通して、原敬の生涯や、その功績、考え方などを学びながら、「宝積」についての理解を深める。
10 月 (12 時間)	【地域の先人に学ぶ②】 ・「原敬生家」を取材し、生家を水彩画で表す学習を通して、自分たちの暮らす地域出身の先人、原敬への愛着心を育てる。 ・原敬生家周辺の美化活動（落ち葉拾い）を行い、「宝積」のよさやその価値についての意識を深める。

(3)活動の様子

- ① 朝のあいさつ運動の取組を通して、学校生活をよりよくしようとするのが高学年としての自分達の「宝積」だという意識を高める子が増えてきた。
- ② 「盛岡の先人」を読み、盛岡には多くの素晴らしい先人がいること、素晴らしい功績を残していること、人のために尽くしたことなど、その偉業にふれることで、自分のよりよい生き方や、将来に向けた自分の夢などについて、あらためて考えていた。
- ③ 原敬記念館の館長である荒川先生に学校に来ていただき、原敬の生き方や考え方のすばらしさを教えていただいたことで、子どもたちは校訓でもある「宝積」を座右の銘としていた地域出身の原敬への尊敬の念を高めていた。
- ④ 原敬生家を描く活動を通して、子どもたちは原敬への思いを一段と深めていた。落ち葉を片付けるために、原敬記念館に行き、落ち葉拾いを行うことで、自分たちが描かせていただいた記念館や原敬への感謝の気持ちを表すとともに、自分たちの活動が「人に尽くして見返りを求めない」という宝積活動へとつながっているという思いをもつ子が多くなった。さらに、集めた落ち葉を1年生の生活科の学習で使ってもらおうと、みんなで力を合わせて学校まで運ぶことで、人のために努力することのすばらしさも感じていた。



(4)考 察

盛岡の先人の生き方や偉業にふれることは、子どもたちが、今の自分を見つめ、将来について考えるきっかけになると感じた。インターネットを中心とした大量の情報の中でも、自己を見失わずに、思いをもって成長していく糧として、先人の生き方は本当に貴重であり、これからもふれさせていきたいと感じた。

単元名	本宮地域宝積プロジェクト	学年	6 学年
-----	--------------	----	------

(1) ねらい

本校の校訓である「宝積」を目指した活動を通して、地域の人々の思いや願い、地域のコミュニティを基盤とした地域のあり方についての思いや願いについて理解し、地域の一員として住民のニーズや地域コミュニティにおける「宝積」の在り方を考えるとともに、本校で学んだ「宝積」の価値を自らの行動やこれからの生活に生かすことができるようにする。

(2) 指導計画（35 時間）

段階	内容
8～9 月	・ 地域に宝積を広げる準備をしよう。 ・ 活動の計画を立てよう。
10～12 月	・ 宝積活動をしよう。 ・ 活動の振り返りをして、2 回目の活動の計画をしよう。

(3) 活動の様子

① 8～9 月には、各クラスで 1 学期のうちに話し合った宝積活動を実際に行うための準備を行った。「地域で行うスタンプラリー」「地域を PR する動画作成」「地域に役立つ情報誌」の 3 つの活動を行うことにした。原敬記念館や先人記念館を含む、本宮地域の公共施設や店舗に協力を求め計画を立てた。取材や協力の連絡・調整は、児童自ら行い実際に地域住民と関わりながら各クラス準備や計画を進めることができた。原敬記念館や先人記念館では、取材を通して地域の方々や各施設の関わりや先人への思いなどを職員の方々から聞くことで関心や親しみの気持ちが高まった。



② 10～11 月には、計画した各活動をクラスごとに行った。「地域イベントとコラボしたスタンプラリー」「地域の PR 動画作成」「地域をつなげるフリーペーパー」を行った。どの活動でも、地域住民と実際に関わり合いながら活動を行うことで、今までより深く地域や先人に愛着をもって過ごすことができるようになった。また、自分たちだけでなく地域へとつなぐ活動を通して、地域の情報や先人についての理解を地域住民へと広げることができた。



(4) 考察

- ・ 自分たちの思いを中心に計画したことで、主体的に活動を進めることができた。特に、地域の方々に直接関わる活動を通して、様々な思いや願いを知ること直接知ることができたのは大きな成果だった。しかし、活動を行う時間やお金など様々なハードルがあり、たくさんの方々に協力をいただくことでなんとか進めることができた。
- ・ 自分たちの足で地域をめぐり、自分たちの目や耳で地域や先人に触れることで、実感を伴った活動を行うことができた。

5 成果と課題

(1)成果

- ・各教科及び生活・総合的な学習の時間の指導の中で、自然と触れ合ったり、自分たちの住んでいる地域の「人」とかかわったりすることで、地域のよさを実感し大切にしたい気持ちをもつことができた。
- ・実際に活動している人の努力や地域住民のもつ地域への期待や願いなど、たくさんの思いに触れることで、地域に伝わる伝統文化への誇りや、自分たちの住んでいる本宮地域への思いが深まった。
- ・盛岡の先人の生き方や功績にふれることで、子どもたちが、今の自分を見つめ、将来について考えるきっかけとなった。

(2)課題

- ・各学年の学びを蓄積したり、調べ学習に活用できる資料を準備したりして、学びの充実を図る。
- ・原敬以外の盛岡の先人については、なかなか取り組めていない状況である。

【太田小学校】

先人教育全体計画

【児童の実態】 ・ふるさとへの愛着や地域課題に対し主体的に取り組もうという意識は低い。
【地域の実態】 ・学校に対して大変関心が高く、協力的である。
【保護者の願い】 ・自分たちのふるさとへの誇りをもってほしい。

【盛岡市の先人教育】 ・盛岡の先人の生き方を学ぶことを通し、より高い価値を思考していこうとする豊かな心を育てる。 ・多くの先人を育んできた郷土について、自然の美しさや高い文化、人々のもつあたたかさを知り、ふるさと盛岡への誇りをもつ。

【大宮中学校区 目指す子ども像】 郷土に誇りと愛着をもち、志をもって行動する児童の育成

盛岡市の教育ビジョン 多くの先人を育んできた美しいふるさとをもち、自ら学び、共に生きる未来と盛岡を愛し、豊かな心と健やかな体をつくる人

【太田小学校 学校教育目標】 ○自ら学び、自ら考え、最後までやり抜く子ども ○思いやりをもち、助け合う子ども ○進んで体を鍛え、最後まで粘り強くがんばる子ども

めざす子ども像		
低学年	中学年	高学年
地域の中で、お世話してくださる人々に関心をもち、郷土の文化や伝統に親しみをもつ子ども	盛岡の先人や郷土の発展に尽くした人々に関心をもち、郷土の文化や伝統を大切にし、愛する子ども	盛岡の先人の生き方に学び、それを育んだ盛岡の風土を誇りとし、郷土を愛する子ども

	各教科	生活・総合的な学習の時間（ふるさと学習）	道徳
1年	【国語】 ことばをたのしもう	「かにのおんがえし」 ～ふるさとのでんせつをしよう～ ・地域の伝説をとおして、ふるさとの宝物（よさ）を見つける。	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ・大すき、わたしたちの町
2年	【国語】 ○がいっぱい (春・夏・秋・冬)	「太田のすてきをみつけよう」 ～太田の自然、働く人々～ ・地域を巡り、地域の方の話を聞きながら、太田のじまんを見つける。	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ・大きくなあれ しあわせになあれ
3年	【国語】 短歌を楽しもう 【社会】 わたしたちの市の歩み	「太田のりんごの秘密を探れ！！」 ～太田のすてき、みつけた～ ・太田のりんごのよさや栽培の苦労や工夫に気付き大事にしようとする思いをもつ。	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ・心をつないだ合言葉 ・にんじんのかざり切り
4年	【社会】 県の地図を広げて 【国語】 短歌・俳句に親しもう	「発見！太田の宝物！」 ～水は宝物～ ・水質調査を通して、自分たちの自然を大切にしていこうとする心情や態度を育てる。	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ・たな田が変身 ・不思議なふるしき
5年	【国語】 新聞を読もう	「未来へ受け継ぐもの」 ～うまい太田米のひみつ～ ・米作り体験を通して地域への誇りをもつ。	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ・美德を守る人など
6年	【社会】歴史 【国語】 短歌「たのしみは」	「私たちのふるさとを見つめよう」 ～つながる大昔からの歴史～ ・地域の歴史について学び、地域再発見をする。	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ・古きよき心 ・おおみそかの朝に
その他	・先人カレンダーの掲示と活用 ・図書室の先人コーナーの設置 ・先人ゆかり給食の実施 ・先人記念館、原敬記念館の活用		

関連活動	学級活動	生徒指導	外国語・外国語活動	ボランティア活動
	・目標の実現	・自己、他者理解	伝統や文化の違い	・V・S活動

単元名	「かにのおんがえし」 ～ふるさとのでんせつをしよう～	学 年	1 年生
-----	-------------------------------	-----	------

(1)ねらい

- ・わたしたちの住む地域には、昔から伝わる伝説があることを、地域の方から話を聞き、ふるさとの宝物（よさ）を見つけることができる。
- ・学んだふるさとの伝説の話を学習発表会で伝えることができる。

(2)指導計画

段階	内容
6 月	「おはなしの風キャラバン事業」として「ぐる一ぷ・ねこの手」に読み聞かせの会（1）
9 月	「太田に伝わる伝説を知ろう」 ・オリエンテーション（1） ・上鹿妻の中村さんから伝説の話を聞こう（1） ・お礼の手紙を書こう（1）
10 月	「かにのおんがえし」の劇をしよう ・発表の準備をしよう（10） ・学習発表会で発表しよう（1） ・振り返りをしよう（1）

(3)活動の様子



自分たちで作れるものを作り、動きを考え、中村さんから伝えていただいた「かにのおんがえし」の伝説のイメージを広げていきました。学習発表会では、中村さんにも鑑賞していただきました。



読み聞かせの会で、「かにのおんがえし」伝説に初めて出会いました。



蟹沢にお住まいの中村さんから地域に伝わる「かにの伝説」のお話を教えていただきました。同じ地区に住む子どももあり、興味深く聞き入っていました。



へびの頭が奉られたとされる「愛宕神社」

(4)考察

地域に住む先輩から、直接お話を聞くことは、子どもたちにとっても伝説を身近に感じることに繋がった。「先人」とは、歴史上の人物だけでなく、今現在も地域にいらっしゃる先輩方も「先人」であり、その方の思いや教えてくださることにふれることも大切な「先人」の学びにつながるのではないかと考えた。

これから、大きくなっていった時、自分たちが耳で聞き、目で見、体で表現したことが心に留まり、次の世代へと語り継がれていくのではないかと考える。

単元名	太田のすてきを見つけよう ～太田の自然、働く人々～	学 年	2 年生
-----	------------------------------	-----	------

(1)ねらい

- ・地域の様々な場所に出かけ、見学したり、話を聞いたりしながら、太田の素敵を見つけることができる。
- ・見つけた太田の素敵なところを学習発表会で地域の人に伝えることができる。

(2) 指導計画

段階	内 容
5 月 (太田の自然)	・オリエンテーション (1) ・町探検の計画をたてよう (1) ・町探検をし、太田の春マップをつくろう (5)
6 月、10 月(働く人々)	・町探検で見つけた気になる店や農家に行き、見つけたことをまとめよう。(20)
10 月 (太田の自然)	・町探検をし、太田の秋マップをつくろう (5)
10 月	・学習発表会で発表しよう (5)

(3) 活動の様子



①太田の自然

4 月と 10 月に地域に出かけ、見つけた植物や生き物をマップにまとめた。



太田の自然



働く人々



②太田の働く人たち

町探検で見つけた気になる店や農家に行き、子どもたちの知りたいことや働いている人々の思いや願いを聞いてきた。その後、分かったことや気付いたことなど



③学習発表会で発表しよう。

見つけた太田の素敵なところを劇にして学習発表会で地域の人たちに伝える。

(4) 考察

- ・五感を通して太田の自然を探すという視点を与え、町探検をしたことで、普段、見慣れている景色の中から様々な植物や生き物を探すことができた。さらに春、秋のマップをつくり、多様な気付きを視覚化して整理したり、お互いの気付きを紹介し合ったりする活動を通して、太田地区にはたくさんの自然があることやそれぞれの季節の自然の良さを実感することができた。
- ・子どもたちが気になる店や農家で、実際に働いている人に接し、知りたいことや働いている人の思いや願いを聞くことで、みんなのために頑張っている人が太田地区にいて、働いている人はみんな大事に野菜を育てたり、商品を売ったりしていることに気付くことができた。
- ・何度も太田地区を歩いて探検する中で、出会う人に挨拶をしたり、話しかけられたりして、太田に住んでいる人の優しさに触れ合うことで、地域に住んでいる人に対する親しみが増した。
- ・学んだことを「太田の宝物コンクール」という劇にして地域の人に発表する活動を通して、太田地区の素敵なおとこを再確認したことで、太田地区に対する思いを深めることができた。

単元名	太田のりんごのひみつをさぐれ！！ ～太田のすてき、みいつけた～	学 年	3 年生
-----	------------------------------------	-----	------

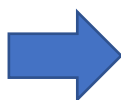
(1)ねらい

- ・盛岡市の中でも、太田では、りんご栽培が盛んなことに気づくことができる。
- ・太田りんごのよさやりんご栽培の苦労や工夫に気づき、太田の自慢のりんごを大事にしようとする思いをもつことができる。
- ・見つけ太田りんごのよさを、りんご販売や学習発表会で発信することができる。

(2)指導計画

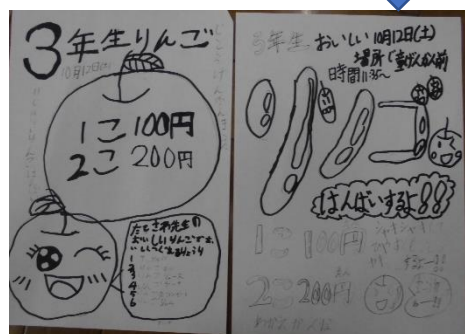
段階	内容
4～5月	・オリエンテーション（１） ・太田で盛んに作られている物は何だろう。（８） ・どのようにしてりんごが作られているのだろう（２）
5～10月	・太田のりんごづくりのひみつをさぐろう（16）
10月	・太田のりんごのよさを、地域みなさんに発信しよう （りんご販売・学習発表会）（９）
11月	・学んだことや太田りんごのよさを、舘澤先生に伝えよう（４）

(3)活動の様子



学習発表会で地域の方に発表

太田のりんご作りのひみつ



手作りのチラシを全校に配布



栽培方法をポスターで提示



りんごの美味しさを伝えた看板

(4)考察

- ・社会科「わたしたちのまちと市」や「農家の仕事」と関連付けて行い、実際に太田のまちを歩くことにより、「太田にはりんご畑がたくさんある」ことを実感することができた。また、事前に調べたりんご栽培と比べながら、実際の栽培体験活動を行うことができた。
- ・栽培体験活動を行う際、栽培のコツやその時に思ったことを記録していたことにより、りんご販売や学習発表会の発表の際、栽培の苦労や太田のりんごのよさを、子どもたちの言葉で地域の方々に伝えることができた。
- ・太田りんごを全て食べさせていただいた。「太田のりんごは美味しい。」と、自慢の太田りんごと実感しながら販売活動を行うことができた。
- ・教師主導となる部分があり、子どもたちの「やってみたい」「知りたい」を子どもたちの気持ちから引き出せなかった。綿密な計画を立て、子どもたちのつぶやきを大事にしながら学習を進めていきたい。

単元名	発見！太田の宝物！ ～水は宝物～	学 年	4 年生
-----	---------------------	-----	------

(1)ねらい

- ・インターネットや本を活用しながら課題を追究し、調べたことをもとにまとめて、発信したりする。
- ・猪去川の水生物調査をし、太田の自然の豊かさに気付く。
- ・猪去川の水質調査や課題追究活動を通して、自分たちも自然を大切にしていこうとする心情や態度を養う。

(2)指導計画

段階	内容
8～10月	・オリエンテーション・学習の計画とゴールを立てよう（2） ・太田の水のきれいさは？猪去川の水生物水質調査をしよう（8） ・水博士になろう（5） ・社会「鹿妻穴堰の開発」、見学・アドプト活動に参加しよう（10） ・レポートにまとめ、紹介しよう。（2） ・学習発表会で発表しよう。（10）

★実践の視点

- ・ **関心意欲** 太田の水が非常にきれいな水であること、自然豊かであることに誇りをもち、自分たちの自慢のふるさとの自然や環境を守っていく心情をもつことができる。
- ・ **思考判断表現** 調べ学習、水生物調査、鹿妻穴堰への社会科見学で学んだことをレポートや学習発表会で、地域の方、お家の方、太田小学校の全校に分かりやすく伝えることができる。

★手立て

- ・環境アドバイザーの方に事前に水生物について教えていただき、きれいな水に棲む水生物について理解したうえで、調査へ行く。
- ・社会「鹿妻穴堰の開発」と合わせて学習を進める。

(3)活動の様子



(4)考察

学習を通し、自分たちの住むふるさと「太田」の水が非常にきれいなことを実感することができた。自慢のきれいな水から育つ農作物（米やりんごなど）のおいしさにも気付いた。ふるさと太田への誇りをもち、この自然豊かな環境を守っていこうとする心情にもつながったと考える。5年生の「うまい太田米のひみつ」にもつながる学びとなった。

単元名	私たちのふるさを見つめよう ～つながる大昔からの歴史～	学 年	6 年生
-----	--------------------------------	-----	------

(1)ねらい

- ・ 地域に残る「蝦夷の森古墳」や「志波城古代公園」の見学や学習を通して、太田小学校区に伝わる歴史について学び、地域を再発見することができる。
- ・ 学んだことをもとに、ふるさとのよさを学習発表会で表現し、伝えることができる。

(2)指導計画

段階	内容
6 月	・ オリエンテーション（１） ・ 太田地区の歴史について調べよう。（１） ・ 「蝦夷の森古墳群」の調査（３）
7 月	・ 「蝦夷の森古墳」について調べたことをまとめよう。（２） ・ 調べたことを発表し、交流しよう。（１）
8～9 月	・ 志波城が建てられた頃の地域の歴史を調べよう。（１） ・ 「志波城古代公園」の見学と調べ学習（３） ・ 見学を通して分かったこと、解決した課題についてまとめよう。（３） ・ 調べたことを発表し、交流しよう。（２）
10 月	・ 学びを活かして、学習発表会で発表しよう。（８） ・ ふり返りを行う。（１）

(3)活動の様子

太田蝦夷森古墳群



1つ目の古墳は方墳でした。名前の通り長方形でそんな大きくはありませんでした。真ん中に花があり、周りには石が積まれていました。

2つ目の古墳は円墳でした。古墳の中心に祠？みたいなものの中に狐の置物とお金が置いてありました。

太田にも昔40個も古墳があったけど今は観測ができるのも2個しかなくなったことが初めて知れてよかった



志波城見学のもとめ

分かったこと
志波城は、坂上田村麻呂が803年前に造営されました
志波城の大きさは、東京ドーム15個分、門の高さが11mで、へいの大きさは、横2.4m、高さ4.5mで防御のほりもあり深さは3mでした

個人の課題
坂上田村麻呂と阿弭流為とエミシのことをもっと知ろう

答え
坂上田村麻呂は、力で従わせるのではなく話し合うことでエミシを治めようとした。そして、802年に田村麻呂は胆沢城を建築した。それを知った阿弭流為は田村麻呂に降伏したそうです




社会科で古墳時代の学習の後、地域にも古墳があると保護者の方から聞き、見学・調査に行きました。その後、個人でまとめ交流しました。

次に「志波城古代公園」の見学・調査に行きました。学芸員の方に詳しい説明をいただき、学びを深めました。10月には、今までの学習のまとめとして歴史劇を発表しました。

(4)考察

- ・ 社会科で学ぶ古墳時代や平安時代の歴史と、ふるさとである盛岡や太田地区の歴史が、実際の史跡をととした学習と重なることで、児童は自身との関連性をもって意欲的に学ぶことができた。
- ・ まとめとして歴史劇に取り組むことをとおして、今まで学んできた大昔からの人々の願いや、地域への思いを深め、表現することができた。
- ・ 「太田蝦夷森古墳群」については、史跡は残っているが風化が著しく、また資料も少ないことから、児童の個人課題の中で解決できないものが多かった。半面、「志波城古代公園」については、多くの資料や映像、パンフレット、詳しい説明もあり、学びを深めることができた。

【太田東小学校】 先人教育全体計画

【児童の実態】 ・明るく素直であるが、困難なことを最後までやりぬこうとする気持ちが弱い。 ・表現力やコミュニケーション能力に課題がある。
【地域の実態】 ・学校は田んぼに囲まれ、のどかな雰囲気である。 ・地域環境や人材が豊かである。 ・農村地帯や新興住宅地などにより、地域の伝統文化に対する興味や関心に差がある。
【保護者の願い】 ・優しく思いやりをもち、他と協力し合う気持ちを育てたい。 ・目標に向かって前向きにねばり強く取り組もうとする気持ちを育てたい。 ・変化の激しい社会を生きるためのたくましさ育てたい。

【盛岡市の先人教育】 盛岡にゆかりがある先人（原敬、新渡戸稲造、米内光政、石川啄木、金田一京助など）の生き方を学ぶことを通して、時代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育むこと。 ○より良い価値を志向していこうとする豊かな心の育成。 ○郷土の自然の美しさ、高い文化、人々のあたたかさ、ふるさと盛岡への誇り。 盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を 「夢」…将来に対する希望、実現したい、自分のめざす理想 「誇り」…自分や自分のふるさとに対する愛着、自信 「志」…目的や信念をもって実現に向けて努力しようとする決意

【大宮中学校区 めざす子ども像】 郷土に誇りと愛着をもち、志をもって行動する児童、生徒

【太田東小学校 学校教育目標】 ○やさしく（互いに支え合い、よりよい生活を築いていく子ども） ○かしこく（確かな思考力をもち、自ら学ぶ意欲的な子ども） ○たくましく（健康な体と強い意志をもち、明るくたくましい子ども）
--

【太田東小学校 めざす子ども像】 地域や郷土を愛し、夢や希望をもって行動する子ども

盛岡市第2期 推進計画より
【授業について】 ・小中学校の系統性を踏まえた先人の生き方を学ぶ授業 ・先人の各記念館の訪問、講話 ・授業実践資料の有効活用
【時代や思いに触れる体験】 ・先人カレンダーの掲示 ・先人コーナーの設置 ・一筆啓上への取組 ・先人ゆかり給食
【教員の研修】 ・長期休業中の研修 ・Q-U分析研修
【大宮中学校区 キャリア教育目標】 豊かな関わり合いを通して社会性や協調性、感性を育み、夢と希望をもって、生き生きとした生活を創造していこうとする意欲や態度を育てる。

	各教科・特別の教科道徳	生活科・総合的な学習の時間	特別活動
1年	・道徳「お正月」「大すきだから」	・がっこうだいすき ・もうすぐ2ねんせい	・先人給食 ・先人カレンダーの掲示
2年	・道徳「見つけたよ」「美字は、みう」	・どきどきわくわくまちたんけん ・みんなでつかうまちのしせつ ・もっとなかよしまちたんけん	・先人を学ぶコーナーの設置 ・啄木かるた
3年	・国語「俳句を楽しもう」「短歌を楽しもう」 ・社会「わたしたちのまちと市」 ・社会「わたしたちの市の歩み」 ・道徳「けいの秋田竿燈まつり」 ・道徳「心をつないだ合言葉」	・太田探検隊 町探検 曲り屋 水田 りんご 昔 太田のよさを発信しよう	
4年	・国語「短歌、俳句に親しもう」 ・国語「伝統工芸のよさを伝えよう」 ・社会「地域で受けつがれてきたもの」 ・社会「昔から今へと続くまちづくり」 ・道徳「折り紙」「ないものはない」	・みんなのまち盛岡 色々な人とふれあおう 色々な人の存在を知ろう 色々な人との交流をしよう	・地域の施設活用 (先人記念館、原敬記念館の見学)
5年	・国語「日常を十七音で」「やなせたかし」 ・社会「未来を支える食料生産」 ・道徳「復興への願い フェニックス」 ・道徳「すごい！ 江戸の社会」	・太田自然探検隊 ・守ろう！私たちの自然環境 (SDG's) ・神楽伝承隊スタート	
6年	・国語「やまなし」「イーハトーブの夢」 ・社会「日本の歴史」 ・道徳「マザーテレサ」「あの夏の郡上おどり」 ・道徳「大みそかの朝に」	・再発見！岩手のよさ 太田のよさ ・なりたい自分になるために ・神楽伝承隊スタート ・卒業プロジェクト	・「子どもと話そう～親子の架け橋・一筆啓上～」

学 校 名	盛岡市立太田東小学校	児童・生徒数	366 名
研究主題	郷土に誇りと愛着をもち、志をもって行動する児童・生徒の育成		

1 研究主題設定の理由

盛岡市教育振興基本計画における「めざす市民像」は、「多くの先人を育んできた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人」である。この「めざす市民像」に迫るため、盛岡の先人たちを中心として、盛岡の歴史や文化、自然や風土を生かした盛岡らしい教育の具体化を図るものとして「盛岡の先人教育推進計画」を策定し、推し進めることとしている。

本校は、地域と協働し、学ぶ喜び、意欲にあふれ、規律と活力のある学校をめざしている。校訓「自主・創造」を経営の基底とし、創造性豊かで、夢や目標をもち、主体的、自律的、社会的に生きるたくましい子どもを育てることがねらいである。めざす子ども像は「やさしい子ども」「かしこい子ども」「たくましい子ども」であり、その頭文字の「やかた」という言葉が全校児童にも広く浸透している。先人教育は、学校経営のねらいに大きく沿うものとなっており、その取組を充実させることにより、校訓・めざす子ども像に迫っていこうと考えた。地域のことを学んだり、先人たちの生き方について理解したりする機会を意図的に設けることで、郷土に誇りと愛着をもち、自分なりの思いや願いをもって行動する児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

- ・身近な地域の先人や「盛岡の先人」の業績や生き方にふれさせることを通して、地域や郷土を愛する心を育てる。
- ・自分の生き方をみつけ、夢や希望をもち、それに向かって努力していく子どもを育てる。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ・実践の視点（「関心・意欲」「知識・技能」「思考・判断・表現」「探究的教育課程」等）を明らかにして取り組むことで、先人教育のめざす価値につなげる。
- ・教科との関連性を大切にした先人教育の実践を行う。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・大宮中学校区の推進会議（6月と12月の2回）において、取組の見通しを共有したり、実践を交流したりする。
- ・実践交流から自校の全体計画の見直しを図る。

4 取組の概要

単元名	ラコントさんとなかよくなろう！	学年	1 学年
-----	-----------------	----	------

(1) ねらい

- ・地域の図書ボランティア「ラコントさん」となかよくなる。
- ・本選びのコツを教わり、11月の読書月間に役立てる。

(2) 指導計画（実践の視点：関心・意欲 ラコントさんとの相互交流による読書の意欲化）

- 5月～ 毎週木曜日の朝に、読み聞かせをしてもらう。ラコントさんの名前を覚える。
- 8月～ 読み聞かせの後、本の感想を話し、ラコントさんと交流する。
- 10月～ ラコントさんにインタビューをして、本選びのコツやおすすめの本などを教わる。
本だけでなく、「ラコントさん」にも興味をもち、なかよくなる。
- 11月～ 読書月間で、教わったことを生かして、たくさん本に親しむ。
家庭読書で、家族に読み聞かせをする。
- 2月～ 児童会の感謝の取り組みに合わせて、ラコントさんに1年間のお礼の手紙を書く。

(3) 活動の様子

- ① 2学期から朝の読み聞かせの後、本の感想を話すようにした。一方通行ではなく、児童からも感想を話すことで「ラコントさん」との交流を図った。
- ② 1学期は生活科の学習で「学校で働く先生方」となかよくなった。2学期は、1学期から関わってきた「ラコントさん」が児童にとっては親しみをもてる地域の方々であることから、「ラコントさん」へのインタビューを実施した。インタビュー当日は、用意した質問の他にも、次々と質問したいことが増え、時間オーバーするほどだった。
- ③ インタビューしたことを「ラコントさんのひみつ」新聞にまとめた。本の事だけでなく、「ラコントさん」について分かった事も書くことで、より親しみを持つことができた。
- ④ 読書月間で、「ラコントさん」に教わったおすすめの本を探して借りる児童や、ミッケやかいけつゾロリ以外の絵本を借りる児童が増えた。
- ⑤ 11月は音読カードに家庭読書の時間を10分位置付けた。「ラコントさん」のまねをして、家族に読み聞かせをしてみようと呼びかけたら、喜んで取り組んでいた。



(4) 考察

- ・一方的に読み聞かせをしてもらう関係ではなく、感想を話したり、インタビューをしたりすることで、「ラコントさん」となかよくなることができた。地域の方が仕事もあるのに、自分たちのために読み聞かせに来てくれることを知り、感謝の気持ちをもつことができた。将来、自分も「ラコントさん」になりたいと思う児童もいた。
- ・朝の読み聞かせを、以前よりもっと楽しみにする児童が増えた。児童は真剣に聞いて感想を伝え、それにより「ラコントさん」は次の読み聞かせの活力になったり、本選びの参考になったりしたようだ。
- ・本の選び方やおすすめの本を教えてもらい、図書館での本の借り方に変化がみられた。「ラコントさん」のようにおもしろい本を選び、家族に読んであげたいとか、ミッケやゾロリばかり借りていた児童が絵本も借りるようになったことである。「ラコントさん」となかよくなることを通して、本にも親しむことができた。

単元名	1「どきどき わくわく まちたんけん」 2「もっと なかよし まちたんけん」 3「みんなでつかう まちのしせつ」	学年	2 学年
-----	--	----	------

(1)ねらい

- ・地域のさまざまな場所に出かけ、地域にはどんな場所がありどんな人がいるのか調べたり、自分たちの生活との関わりを見付けたりすることができる。
- ・地域の場所や人に親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりしようすることができる。

(2)指導計画（実践の視点：関心・意欲 まちたんけんでの交流による地域に対する関心の高まり）

段階	学習内容（時数）
5～6月 (1：10時間)	・まちたんけんのことを話そう。(1) ・たんけんの計画を立てよう。(3) ・まちをたんけんしよう。(2) ・見つけたことをつたえ合おう。(4)
10月～11月 (2：9時間)	・春のまちたんけんでは気づいたことから、もっと知りたいことを話し合おう。(1) ・たんけんの計画を立てよう。(2) ・まちたんけんに出かけ、しせつややはたらいっている人についてしらべよう。(2) ・しらべたことをまとめ、しょうかいしよう。(4)
(3：6時間)	・図書かんをつかおう。(3) ・図書かんのことを聞いて見よう。(2) ・みんなでつかうしせつのことを話し合おう。(1)

(3)活動の様子

- ① 1学期の町探検では、学校の周辺を歩き、普段気付かなかった物や場所に気付くことができた。運動する体育館や曲り家のある活動センター、手作りパンなども売っているデイリーヤマザキ盛岡上太田店、病院や薬局、JAいわて中央盛岡支所、その前に電話ボックスがあること、赤いポストがある盛岡太田郵便局、大松院という大きなお寺、太田保育園などがあることを知った。そして、自然豊かな田園風景の中にある岩手山の美しさを感じることができた。
- ② 2学期の町探検では、春の町探検で気になったところや詳しく調べてみたいことなどを出し合い。班毎に8つの施設やお店に分かれて訪問し、お話を聞いたり、見学したりした。発見したことや調べたことなどは、撮ってきた写真を入れてロイロノートにまとめ、友達に紹介した。
- ③ 太田地区活動センター及びその中にある図書室へ訪問し、話を聞いたり実際に利用したりすることで、多様な人が利用しやすくなるような工夫があることやそれを支えている人がいることに気付くことができた。学校図書館にはない本も多数あり、身近なところに便利な施設があると関心が高まった。



(4)考察

- ・地域の方との触れ合いを通して、地域には様々な仕事をしている人がいることを知り、どの人も地域の人のことを想って働いていることに気付くことができた。
- ・町探検で発見したことをカードにかき、探検マップに記すことで、自分の地域に関心をもちもっと知りたいという意欲につながった。さらに、グループ毎に施設やお店などを探検し調べたことを友達と伝え合う活動を通して、地域への親しみや愛着をもつことにつながった。

単元名	太田のよさを見つけよう	学年	3 学年
-----	-------------	----	------

(1)ねらい

太田のよさを調査する活動を通して、自分たちが生活している地域には様々な魅力があり、それらに携わってきた人々とその思いを知って、それらに愛着を深めるとともに、ふるさとに誇りをもって生活することができる。

(2)指導計画（実践の視点：思考・判断・表現 太田の良さについて多面的多角的に追究した学び）

学期	学習活動
1 学期	地域のよさについて話し合い、学習課題や学習計画を立てる。（2 時間） 探検 1 「トマト名人に学ぼう」（5 時間） ・地域のトマト農家を見学し、地域の特産物であるトマトの生産の様子や思いを知る。 まとめ 1 調べたことを「トマト新聞」にまとめ、伝え合う。（3 時間）
2 学期	探検 2 「熊野神社を訪ねよう」（5 時間） ・太田東小で受け継がれている「八ツ口神楽」の奉納が行われる熊野神社を訪ね、神社の歴史や神楽に込められた願いについて知る。 探検 3 「田んぼ名人に学ぼう」（5 時間） ・なぜ太田には水田が多いのかという疑問について、地域の農家の方から話を聞き、鹿妻本堰の役割や、「盛岡の米どころ」として太田の田畑が保護されていることを知る。 まとめ 2 調べたことを新聞にまとめる。（3 時間） まとめ 3 学習発表会で、学んだことを「太田少年少女冒険隊」として地域の方に発表する。（8 時間）

(3)活動の様子



（上）神社の本堂に上がり、宮司さんから神社の歴史について説明を受ける子ども達。

（右）太田のよさを新聞にまとめました。



学習発表会で発表した劇「太田少年少女冒険隊」で、学んだことを元気いっぱい伝えた子ども達。

(4)考察

- ・自分たちの住む太田地区の農業の様子や地域の神社の歴史について、地域の方々から直接教わったことで、自分たちの住む地域のよさを味わい、愛着をもつことができた。
- ・調べて分かったことを、劇を通して地域の方に発信したことで、さらに地域のことを知りたいという意欲をもつことができた。
- ・調べたことをまとめる方法として新聞を取り入れたが、ロイロノートを活用してまとめるなど、選択肢を広げていきたい。

単元名	盛岡の先人たちに学ぶ～調べ学習を通して～	学年	4 学年
-----	----------------------	----	------

(1)ねらい

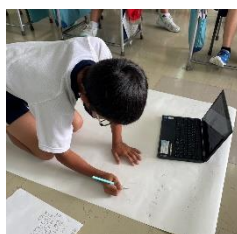
盛岡にゆかりのある先人の生き方を調べ、まとめる活動を通して、先人たちの努力や苦勞を知り、自己の生き方に生かそうとする態度を養う。

(2)指導計画（実践の視点：探究的教育課程 グループ毎に課題設定から発信まで追究する学び）

オリエンテーション	1	盛岡にゆかりのある先人たち（石川啄木、金田一京助、米内光政、原敬、新渡戸稲造）について触れ、暮らしをよりよくするために努力してきた人々が多くいることを知る。
調べる	4	郷土のために尽くした人々について、調べたい人物を決め、調べる。
まとめる	3	調べたことを模造紙にまとめる。
交流する	2	調べた内容の交流会をする。 先人の生き方から学んだことをまとめる。

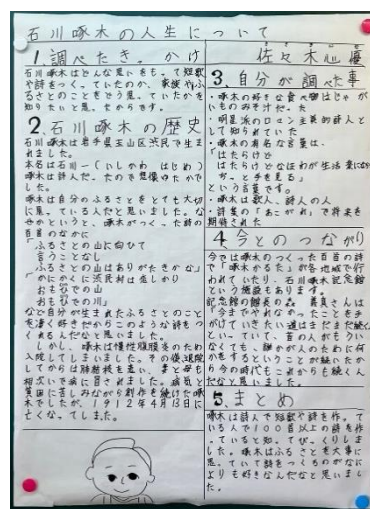
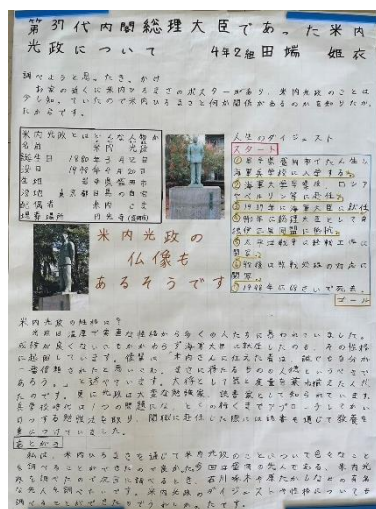
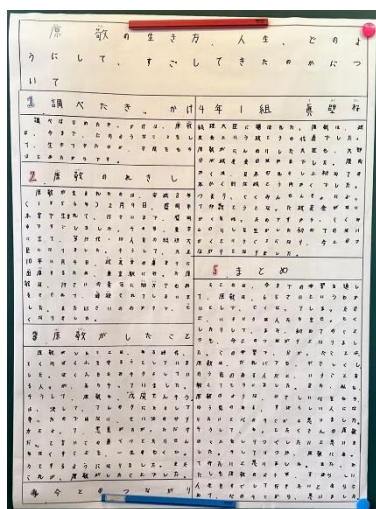
(3)活動の様子

調べ学習の様子



もりおか歴史文化館で行われた「モリガク」という自由研究コンクールにも出品しました。
2名の児童が館長賞と優秀賞をいただき、全員の作品がもりおか歴史文化館に展示されました。

調べた内容を模造紙にまとめる



(4)考察

- 「盛岡の先人たち」を読み、5人の先人の生き方に触れることで、ほかにも盛岡のために尽くした先人がいるのではと考え、調べる意欲につながった。
- 調べたことを模造紙にまとめたり、調べた内容を交流したりすることで、先人たちの強い思いや偉業を成し遂げるための苦勞を感じ、自己の生き方を見つめ直すことができた。
- 一人一台端末を活用して調べ学習を行ったが、操作の部分で個人差があるため、難しい子にとっては時間が足りないという問題があった。十分な時間の確保が必要である。

単元名	ハツロ神楽をつなぐ	学年	5 学年
-----	-----------	----	------

(1)ねらい

- ・地域の伝統芸能であるハツロ神楽の歴史を理解し、受けつがれてきた経緯や先人の努力を知ることを通し、地域の伝統や文化を大切に思う心情を育む。
- ・引継ぎ活動を通し、本校の伝統であるという思いを受け継ぎ、自分自身が歴史を繋ぐ担い手であるという自覚や誇りを実感し、喜びをもって伝承活動を行う態度を養う。

(2)指導計画（全 17 時間）（実践の視点：思考・判断・表現 伝承活動を通しての伝統を受け継ぐ自覚）

段 階	内 容
導入 (2時間)	○オリエンテーション～始まりと先人の努力～ ・ハツロ神楽の始まりと地域の伝統芸能として伝承することに尽力した先人「熊谷祐造」の努力について知る。 ・先人の思いや工夫、努力について分かったこと、考えたことを話し合う。
展開 (13時間)	○6年生からハツロ神楽の踊りを引き継ぐ。(2学期：体育、総合) ○地域のハツロ神楽保存会のお師匠様より指導いただく。(3学期：体育、総合)
終末 (2時間)	○6年生を送る会でハツロ神楽を披露し、5年生が次の担い手であることを全校に伝える。(次年度運動会表現で地域に披露) ○学習の振り返りを行う。

(3)活動の様子

① 【ハツロ神楽の歴史を知る】

オリエンテーションにおいて、映像や写真などを用意し、クイズ形式で、学習を進めた。ハツロ神楽の発祥や先人の努力に焦点化して学習を展開し、児童が、神楽は地域の大切なものであるという思いをより明確にもてるようにした。



② 【ハツロ神楽の伝承活動に尽力した地域の先人「熊谷祐造」について知る～ワークシートより～】

- ・先人の活動のおかげで、人々の生活や社会にどんな「変化・発展」があったか➡今でも伝承され、みんなが真剣に取り組んでいる。
- ・先人のことを調べて、考えたことは何か➡自らもハツロ神楽を受けつぎ、人々の生活の向上を目指したのがすごい。今自分にできることは、神楽を覚え、しっかり舞うことができるようにすること。

③ 【6年生からハツロ神楽の踊りを引き継ぐ】

小グループに分かれて、6年生から丁寧な踊りを教わる。踊りの難しさを実感することを通し、引き継ぐことへの責任を自覚できるようにし、個々が確実に教わろうとする思いを高める。



(4)考察

- ・ハツロ神楽の「踊り」を引き継ぐだけでなく、先人の努力を通して、この活動が残されているという歴史を知った上で伝承活動を行ったことで、地域の大切なものを残すという自覚につながった。
- ・長年にわたり伝承されてきた神楽が、初代校長 熊谷祐造氏の努力によるものであった内容を学習計画に組み入れたことにより、伝承活動を身近に感じ、自分たちが繋ぐという責任と喜びをもって伝承活動に取り組もうとする態度が育まれている。

単元名	先人について調べ、プレゼンテーションをしよう	学年	6 学年
-----	------------------------	----	------

(1)ねらい

盛岡の先人の生きた軌跡を調べることとおして、郷土に誇りをもち、自分の生き方について考えることができる。

(2)指導計画（実践の視点：探究的教育課程 グループ毎に課題設定から発信まで追究する学び）

段 階	内 容
導入（2 時間）	・ 5 人の先人の概要を知り、調べたい先人を決める。 ・ グループを作る。
展開（10 時間）	・ 調べる項目を話し合って決める。 ・ 項目の分担をする。 ・ 担当した項目について、インターネット等で調べ、ロイロノートに記録する。 ・ ロイロノートでプレゼンテーションの編集をする。 ・ プレゼンテーションの練習をする。
終末（2 時間）	・ 発表会を開催する。

(3)活動の様子

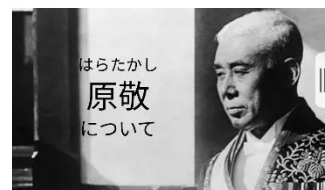
各先人について、「生い立ちと家庭環境」「学校での少年時代」「大学時代」「時代背景」「どんな仕事をしたか」「どんな生き方考え方をしたか」「引退して晩年どんな生活をしたか」「この先人から学ぶこと」という 8 つの項目で分担して、調べ活動を行った。最適な資料を探すのに、苦労した児童もいたが、何とか、全項目についてグループで調べることができた。

プレゼンテーションの編集にあたっては、写真や資料を厳選して挿入すること、表紙や最後のページを工夫すること、フォントの工夫、色や背景の工夫などを行っていった。また、資料にある、難しい表現を、易しい表現に直すこともおこなった。

発表会では、聞いている人に興味をもって聞いてもらうようグループごとに練習を行ってから、発表をした。また、参観日には、中間発表会を行い、みんなで進捗状況を確認するとともに、保護者の皆さんにも活動の様子を見ていただいた。

生い立ちと家庭環境

原敬は、盛岡市本宮で生まれ、15 歳まで盛岡で過ごし、東京に出て立憲政友会という政党の総裁から第十九代・十人目の総理大臣になった人です。



(4)考察

- ・ 同じ地元から、国の中心へ、そして世界へとはばたき、活躍した先人を知ることによって、驚きと共に、畏敬の念を抱く児童が多かった。
- ・ 偉大な先人といえども、子ども時代には、自分たちと同じようなエピソードがあることを知り、親しみをもつことができた。
- ・ 先人たちが残した格言にふれることにより、自分たちの生き方の参考にすることができた。
- ・ 同じ興味をもった児童たちで、グループを構成することにより、意欲的に活動することができた。
- ・ 視覚に訴えるプレゼンテーションを工夫し、作成することができた。
- ・ 中間発表会をおこない、場を踏むことによって、堂々と発表することができた。

5 成果と課題

(1) 成果

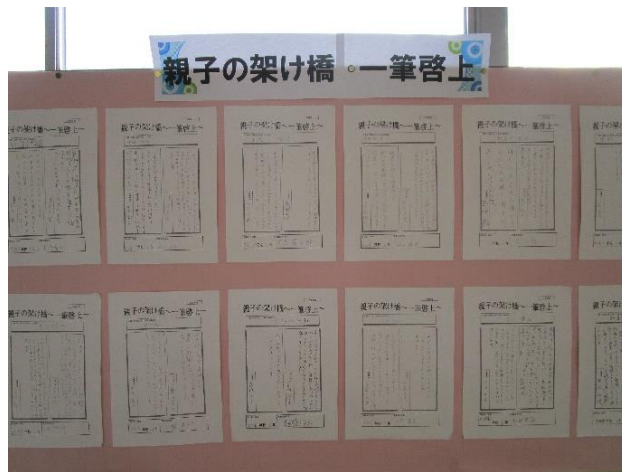
- ・ 実践の視点を明らかにして取り組むことで、各学年の実態に応じたねらいに迫ることができた。
- ・ 地域の身近な先人に直接話を聞いて学んだり、「盛岡の先人」の業績や思いについて自分たちで協力しながら調べたりする活動を通して、改めて先人の素晴らしさや偉大さに気づき、郷土に誇りや愛着を感じることができた。
- ・ 先人学習のまとめについて、学年、全校、保護者、関係機関など学年に応じて発表する場を工夫して発信することができた。
- ・ 中学校区の学校間で取組の見通しについて情報を共有したり、実践を交流したりする機会を設け、お互いに連携しながら進めることができた。

(2) 課題

- ・ 各学年の実践の成果と課題を精査し、次年度以降改善を加えながらよりよい実践につなげていく必要がある。今後も中学校と連携しながら、9年間を見通した指導計画の見直しに努めていく。
- ・ 児童一人一人のICTの活用を含めた「調べる」「まとめる」「発信する」ためのスキルを高める指導の工夫が必要である。



【廊下掲示 先人コーナー】



【親子の架け橋 一筆啓上】

先人教育全体計画

盛岡市立大宮中学校

盛岡市教育ビジョン 多くの先人を育んできた美しい ふるさと盛岡を愛し、豊かな心と すこやかな体を持ち、自ら学び、 共に生きる未来を創る人 ～盛岡の子どもたちに 「夢」と「誇り」と「志」を～	学校教育目標 体 強いからだ 徳 豊かなこころ 知 高い知性	生徒の実態 ・学習に向かう意識が高く、学習習慣が身についている生徒が多いが、積極的に学習に取り組めない生徒もいる。 ・目標を持ち取り組むが、粘り強く努力しようとする姿勢を伸ばしたい。
		小学校との連携 ・各教科・特別活動・生徒指導での小学校との連携がある。 ・小学校での先人教育との連携を図る。

先人教育の目標 「先人の生き方とその背景を探求し、自己の生き方や考え方に生かそうとする生徒の育成」 ○ 郷土の先人の生き方に関わった人物や背景を探求することで、自分の身の周りに目を向ける態度を育成する。 ○ 先人の生き方や考え方を学ぶとともに、先人の生きた町並みを知り、郷土を大切にしようとする心を育成する。 ○ 先人の生き方や考え方を学び、自己の生き方を見つめる。
--

	1 年	2 年	3 年
	朝読書「盛岡の先人」		
	総合的な学習の時間大テーマ 『 よりよい生き方を求めて 』 ※先人の生き方や考え方から自己の生き方を見つめ、「夢」「誇り」「志」を持てるように工夫していく。		
総合	1 学年 「人の生き方に学ぶ」 ～人に学び、自分自身に目をむける～ 【主な学習活動】 ・先人学習 ・野外活動 ・自分を知る ・職業調べ 【ねらい】 ・郷土岩手の先人の業績を追究するとともに、様々な課題に立ち向かう姿勢や考え方を生き方として大切にする。 ・自分自身の良いところを知り、課題を把握することでよりよい生き方を目指す一歩とする。 ・身近な人の職業を調べ、取材することにより、将来への希望や目標設定につなげる。	2 学年 「自分を見つめる」 ～職業観、勤労観、生き方を肌で感じ、自分自身の成長・夢につなげる～ 【主な学習活動】 ・宿泊研修 ・職業講話 ・職場体験学習 ・復興学習 ・修学旅行事前学習 【ねらい】 ・様々な職業人の話を聞き、職業について調べるとともに働くことの苦労ややりがいを知る。 ・職場体験学習を通して、働くことの意義や生きがい、自己の生き方について考えを深める。 ・心身の健康や家族・地域との繋がりの大切さ、仕事への責任等を理解する。 ・修学旅行での個人テーマを設定し、修学旅行に向けて意欲を高める。	3 学年 「社会とともに生きる」 ～多様な社会の中の自分を実感し、自分自身の夢の実現にむけた努力～ 【主な学習活動】 ・修学旅行 ・福祉学習 ・自分を表現する ・3年間のまとめ 【ねらい】 ・社会見学や体験を通して、個人テーマを追究し、社会の仕組みや現状に目を向ける。 ・福祉学習を通して、様々な人々と社会の中で共に生きる態度を大切にする。 ・自分自身の目標を定め、自分の良さや特性を表現し、将来の夢や社会貢献につなげる。 ・総合のまとめを作成（小論文・作品・ミニHPなど）することで、提言力を高める。
各教科	美術：萬鉄五郎 松本竣介 舟越保武	国語：石川啄木 「豊かな表現『短歌』」	社会：原敬「政党政治の確立」 新渡戸稲造 「国際連盟の設立」
道徳		新渡戸稲造「若き日の稲造」 後藤新平「復旧にあらず復興なり」	三船久蔵「三船先生の写真」 吉川保正「いわての美をさぐる」 和村幸得「村を救った防潮堤」

学 校 名	盛岡市立大宮中学校	児童・生徒数	527 名
研究主題	先人の生き方とその背景を探求し、 自己の生き方や考え方に生かそうとする生徒の育成		

1 研究主題設定の理由

盛岡市の学校教育は「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「たくましい体（体）」の3つの力をバランスよく育むことを目標としている。本校では、その3つの力をそれぞれ伸ばし、理想とする生徒像に迫るための核となる、学ぶ意欲を喚起し、自ら考え判断していく力を高める重要な役割を果たすものの一つとして「先人教育」を総合的な学習の時間を中心に位置付けている。

「盛岡市の先人教育」は、各教科や特別活動、道徳、総合的な学習の時間などすべての教育課程の中で、盛岡にゆかりのある先人の生き方に学び、自分自身に目を向けることで、次世代を担う子供たちが「夢」、「希望」、「志」を抱き、ふるさとに対する愛情、目標に向かって努力する心を育むことを目標としている。

本校では、客観的に自己を見つめてよりよい生き方を求めていくために、生徒一人一人に「夢」と「希望」と「志」をもたせるような先人教育を行うことで、自分の生き方のみならず、「地元で愛着をもち、誇れる郷土や地域にしたい」、「自分自身が地域の役に立ちたい」といった生徒が育つであろうと考え、この主題を設定した。

2 研究の目標

- (1) 郷土の先人の生き方に関わった人物や背景を探求することで、自分の身の周りに目を向ける態度を育成する。
- (2) 先人の生き方や考え方を学ぶとともに、先人の生きた町並みを知り、郷土を大切にしようとする心を育成する。
- (3) 先人の生き方や考え方を学び、自己の生き方を見つめる。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- これまで取り組んできた本校の実践を基本とし、今年度は以下の項目を重点として取り組む。
- ・先人の生き方を考える視点を与え、自分の生き方と重ね合わせられる工夫を行う。
 - ・自分の考え方や力を自己評価することで、客観的に自己を見つめられるようにする。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・中学校区での「盛岡の先人教育」の目標、実践の視点の明確化等の方向性を確認し、実践にあたる。
- ・小学校3校の実践内容をもとに、先人教育を通して目指す生徒像、先人教育全体計画とその具体についての改善と共通理解を図る。
- ・先人教育を行う切り口は様々であっても、9年間を見通した系統的な指導の道筋を互いに確認し、さらに推し進めていけるようにする。

4 取組の概要

単元名	総合的な学習 「人の生き方に学ぶ」 ～人に学び、自分自身に目をむける～	学年	1 学年
-----	--	----	------

(1) 単元の目標

- ・郷土岩手の先人の業績を追究するとともに、様々な課題に立ち向かう姿勢や考え方を生き方として学習する。
- ・自分自身の良いところを知り、課題を把握することでよりよい生き方を目指す一歩とする。

(2) 指導計画（全 17 時間）

学習段階	学習内容	学習のねらいと学習内容	時間
Unit1 先人学習 < 9 月 ～11 月 >	Unit1 の学習ガイダンス	・「先人学習」での学習内容を知り、どんな内容を追究するか考える。	1
	事前学習① (個人テーマの設定)	・「先人学習」で自分が何を追究するか考え、個人テーマを設定する。	1
	事前学習② (追究学習 1)	・個人テーマについて事前に調べ活動をする。(学習シート、PC など)	2
	事前学習③ (追究学習 2)	・現地での取材内容を考える。・質問を用意する。	1
	事前学習④ (全体確認)	・「先人学習行動日」での係活動や分担、約束などを確認し、充実した学習をする準備をする。	1
	探究学習 (体験)	・個人テーマをもとに、現地で体験や取材をする。(インタビュー、資料収集等)	4
	「行動日」のまとめ (レポート作り)	・まとめ方法について学習する。 ・個人テーマをもとに、事後学習に取り組む。	4
	先人学習のまとめ (発表会)	・発表会でわかりやすく伝える方法を学習する。 (発表準備 2、発表会 1)	3
		小 計	17

(3) 具体的な取組

①テーマの副題を『先人たちの「夢」と「誇り」と「志」を育んだ、ここ盛岡の地を探る』とし、先人たちの生き方や功績を追いながら、先人の”人生のターニングポイント(岐路、転機、変わり目)”となる出来事や人との出会いを探すとともに、ここ盛岡の地にスポットをあて、盛岡の魅力と人を育てる気質を探究させる。「人の生き方に学ぶ」うえで、岩手の先人がどんな「夢」と「誇り」と「志」をもっていたのかを読み解き、自分自身の「夢」と「誇り」と「志」を育み、高めていけるようにする。

ア 小学校での先人教育の取り組み方に違いがあるため、岩手の先人とその功績を簡単に示し、選択させ、すべて個人研究とし、自分のテーマに沿って学習を進めることとした。

イ 学習シートに「夢・誇り・志メーター」として自分の考えを自己評価できるようにする。自分の理想とする「夢」「誇り」「志」を100%として、今の自分がどの程度考え、努力しているかを、棒グラフメーターとして自己評価する。理想とする「夢」「誇り」「志」は先人学習が進む中で、例えば、先人の志の高さに触れ、自分の理想の志を高くしたことで、自己評価が下がったり、先人の誇りある行動に触れ、自分の誇りの自己評価が高まったりするなどの変化をもたらしたい。

ウ 本校の研究主題のキャリア教育とも関連させ、本校生徒がつけたい「5つの力」※1とも関連させて「成長エントリーシート」を作成し、自己評価させる。自己評価については、事前学習、先人学習当日、レポート発表後の3回行い、自分自身の変容を表現させたいと考えている。その中で、自分の力を客観的に評価し、自分の生き方のみならず、「地元に着用をもち、誇れる郷土や地域にしたい」「自分自身が地域の役に立ちたい」といった気持ちを育てたい。

※1 本校では、キャリア教育の視点から、教育活動全体をとおして本校生徒に身につけさせたい力として「5つの力」の育成に取り組んでいる。その5つの力とは「わかる力」「かかわる力」「やりぬく力」「みつめる力」「つなげる力」である。

11月13日(金)の先人学習で、訪問施設ごとにバス等を使って出かけます。今日は先人学習で調べたい先人で行きたい施設を決定するためのアンケートを取りたいと考えています。

※空欄は先人の本や、インターネットで調べたりしましょう。

—× 切り取り ×—

組 番 氏名

調べたい先人と訪問先を第 3 希望まで書きましょう。

総合学習 先人学習 成長エントリーシート2 「つけない力」

自分の理想とする力を100として、自己評価してみよう！

【事前学習】 ○ストロングポイント ○ウィークポイント	【先人学習当日】 ○ストロングポイント ○ウィークポイント	【レポート発表】 ○成長点
【先人学習全体を通して】 ○ストロングポイント(強味) ○ウィークポイント(弱み・今後の課題)		

※自己評価だけでなく、友だちからのアドバイスをもらってみよう！そして、より客観的に自分を評価して、たくさんの成長点を見つけよう！

エ 先人学習のポートフォリオとして、先人レポートを作成した。その中に、自分の調べた先人の生涯をまとめる年表と、そこから考えられる先人が志を高めるきっかけとなった人生のターニングポイント、その志についてまとめさせ、発表原稿の中にもその視点を入れて、生き方について考えさせたい。

【先人學習用】

[illegible]

※自分の理想とする力のレベルを100として、棒グラフをつくり、自己評価してみよう！

「宮澤賢治」の墓 明治29年に賢治が誕生しました。明治34年、父の病で賢治は生後5歳の時に母と妹のシゲ、弟の清六、妹のワニと共に、宮澤賢治が初めて小学校に入學しました。明治39年に植物と鉱物学系に入学し、明治42年に、ワニの2が生まれました。明治42年には、中学校在學し、明治44年には、石川啄木が作品の一編の原稿を賢治に送り、賢治はそれを見て、作品を出し始めました。昭和6年9月2日、午後1時30分に死んでしまいました。	【ターニングポイント】 石川啄木「一編の原稿」といふ作品と讀んで、作品をつくうと、それだけなので、それで賢治の人生は変わりました。 【志】（生き方の信念） 「宮澤賢治は石川啄木に影響を受け、死ぬまでいろいろな文章を書き送っていた」と宮澤の信念が、な
---	--

調査内容と結果

調査内容は、宮澤賢治の一生を知ることでした。それで調べた結果がまず明治29年に宮澤賢治が生まれました。そして、次に、妹のワニ、妹のシゲ、弟の清六、妹のワニが生まれてきました。そして、一番宮澤賢治が人生で最も、作品を作ろうとしたとき、かけが石川啄木でした。石川啄木が出した「一編の原稿」を見て、作品を作ろうという、かけができました。そして、病床になつてから「雨ニモマケズ」を書きました。それは、自己犠牲性、他者への奉仕を説くために書いた作品だそうでした。昭和8年3月21日、午後10時30分に宮澤賢治は、急性肺炎が悪化したためこの世を去りました。こうして、

私は、この先人学習で「深沢紅子」について調べました。

1①個人研究テーマを「大事にしてきた考えや夢」として、(設定理由)「絵で有名になつたので、何かに成功してまた考えがあとあった」からです。

2②「画家としての生涯を調べてこのような考えを持つターニングポイント(きっかけ)は、13月23日に絵が大好きな父の死とどうも、影響をうけた」と感じました。

3③私は、この学習を通して「深沢紅子」は「行動力のある」人なのだと思います。なぜなら「紅子は絵をが喜びを教えるのが、私の使命だ」と考え、その時代はたぐひ習い事になかたけと夫の深沢省三と図画教室をひらいた」からです。

4④特に印象に残っているのは、「76歳」火事で全部の作品が焼けてしまつて近所の人に分配されたけど紅子はそこめげずに「また、かけはいいと前向き考え」といふことです。

5⑤「深沢紅子」の生き方を学んで、「これからの人生で何回かきつすることはあると思うけど、有名になつた人などは、そこで諦めたりせずに、前向きに夢にむかって頑張っているの。私もそういうふうになつていきたい」と思いました。

これで見表を終わります。ありがとうございました。

○感想(自分の発表を振り返って思うこと、他の班員の発表を聴いて感じたこと 等)

- # プレゼンテーション《発表》に必要とされるものとは？！
2024. 11. 22
- 様々な形式での発表の仕方があります。今回は、画内の「プレゼンテーション」での形式で行います。
発表（プレゼンテーション）に必要な力について考えてみましょう。
- プレゼンテーションは「発表」です。ですから発表の形態をや手法を問わずに何らかの内容を説明、提案、発表
することは全てプレゼンテーションと呼ばれるます。
- ## 【プレゼンテーションに必要とされるもの】
- プレゼンテーションに必要なことは、の、
- 1つがPersonality（人柄）
 - 2つめはProgram（内容）
 - 3つめがPresentation skill（伝え方）
- といわれています。
- つまり、誰が（人柄）、何を（内容）、どのように伝えるか（伝達技術）ということです。これら3つが合わさってこそすばらしいプレゼンテーションが生まれるんですね。
- 人の第一印象は最初の4分で決まるとアメリカの心理学者ズーニン氏が言っています。みなさんはどうでしょうか……？前に座っている方はじめて見たときと似たような印象……覚えていますか？
- 人に「伝えること」と「感じとる」ことを考えてみましょう。
- ## 【プレゼンテーションに必要な8つのステップ】
- 【内容の組み立て方】
- | | |
|-----------------|------------------|
| Step1（テーマの確認） | ↓ |
| Step2（情報収集） | ↓ |
| Step3（構想） | ↓ |
| Step4（下書き） | ↓ |
| Step5（再構想） | ↓
もう一度構想をねる |
| Step6（ブラッシュアップ） | ↓
いふ分たこととそぞろ |
| Step7（リハーサル） | ↓
時間配分・発表チェック |
| Step8（当日） | |
1. SDS法
Summary（全体要約）
Details（詳細説明）
Summary（全体要約）
1）聴衆者に、これから何を話すかを要約して概要を話す。
2）本論を実際に詳しく話す。
3）最後に、もう一度内容を話したかをまとめる。
2. PREP法
Point（要点）
Reason（理由）
Example（具体例）
Point（要点）
1）最初、自分の言いたい結論を述べる。
2）次に、その理由を述べる。
3）具体例、実例、事例を挙げ相手を納得への導く。
4）最後に、もう一度自分の言いたいポイントを繰り返し締めくく。
- 実際のプレゼンテーションを行う場合は、企画書やプレゼン資料を作ってしまうので、資料をシナリオとして構成し、それにつづいた形で進めていけば良いでしょう。ただ、調査内容や企画内容だけを重視して説明をし、全体のプレゼンテーションの流れを壊してしまうケースも受けるので、注意してください。
- 相手は、あなたの作った資料をばらして見ます。作り手は十分内容を理解しているのですが、相手は0（ゼロ）からのスタートです。時間内に相手に情報を正確に伝えられるよう分かりやすい説明方法が必要とされるわけです。

【聴覚効果】
 聴覚効果をうまく利用して説明をする事がなぜ大事なのか…。 聴覚効果を使う場合とそうでない場合を比べると、その差は4倍違うそうです（ミヤタ大英貴資料）。ビジュアルをうまく利用することによって、受け手の理解を助け、興味・注目を集め、短時間で多くの情報を伝達できる。しかも記憶に残る割合を大きくできるのです。

“聴覚効果をうまく利用する”というのには、なにも資料だけの話ではありません。発表者の身ぶり手ぶり・いっしょにゆるゆるピーティングなども大事な要素です。表情から伝わるインパクトは大変大きいことがわかります。（〃）

米国カリフォルニア大学の心理学者アルバート・メラビアンの教授の実験では、コミュニケーションを構成する3つの要素
 <1>言葉（なにを言うか）
 <2>話し方（声の調子、高低、音色等）
 <3>ボディランゲージ（態度、姿勢、身ぶり、手ぶり、顔つき、外見、視線、服装など）
 の中で、言葉以外つまり非言語コミュニケーションの果たす役割が全体92％であると発表しています。つまり、プレゼンテーションの方法もこういった観点から考え直さなければならないのです。

【評価】						
テーマ	Personality (人柄)	第一印象	A	B	C	D
		態度	A	B	C	D
		誠実さ・熱意	A	B	C	D
プレゼンを終えての感想	Program (内容)	内容の組み立て	A	B	C	D
		視覚効果(資料)	A	B	C	D
	Presentation skill (伝え方)	聞き手を見て話す	A	B	C	D
		声の大きさ	A	B	C	D
		イントネーション	A	B	C	D
		ボディランゲージ	A	B	C	D
総合評価: 自分の生きているに学ぶ) ～人に学び、 自分自身に目をむける～ A B C D	総合得点		/100			
よりよい生き方を求めて 「人の生き方」に学ぶ」 最終到達目標: ～人に学び、自分自身に目をむける～ 独立した者の先人の経験を過言するとともに、様々な困難に立ち向かう 勇気やゆきをかき立てて学習する。						
今までの自分 今の自分 未来の自分	自分の生きる姿勢を考える 「人生の成功 「社会貢献」を 実現させる力	◎ 具体的に「ついでに」 段階 段階設定 段階設定能力 活用能力 段階追求 情報活用能力 コミュニケーション能力 問題解決 表現力 計画目標設定 自己評価力				

(4) 活動の様子

探究学習として設定した午前中の先人学習では、以下の3つのコースに分かれ、それぞれの調べたい先人に係わる施設を訪問し、調査活動を行った。

① 設定コース

【啄木コース】啄木に係わる渋民散策

渋民運動公園→鶴飼橋→啄木公園→渋民小学校→石川啄木記念館→宝徳寺→愛宕神社

【原敬・賢治・南部・紅子コース】

- ・原敬記念館（先人ビデオ視聴 30 分程度、館長による館内説明、自由見学）
- ・もりおか啄木・賢治青春館（自由見学）
- ・もりおか歴史文化館（自由見学）
- ・深沢紅子野の花美術館（自由見学）

【美術館・県内先人コース】

- ・県立美術館（常設展自由見学）
- ・盛岡市先人記念館（自由見学）



② 生徒の感想（ポートフォリオから）

- ・先人の生き方から学んだこと

【石川啄木】

私は石川啄木の生涯を知り、「弱みも生かすことができるんだ。」ということを学びました。親友の金田一京助が「体を良くするためにもちゃんと飯を食え。お前は細すぎる。」というようなことを言っていたそうですが、啄木は「食べる米すらねえ。」と苦笑いしていたそうです。でも啄木の短歌にはこうした貧困やふとした日常の心情や切ない気持ちを歌った歌が多く、だからこそ多くの人に共感され、人気となっていったと思います。「貧しさ」という弱みを歌に変えて人気になった啄木は弱さも強みに変えていったと思いました。

【金田一京助】

金田一京助は、教授の言葉でアイヌ語の研究をはじめたが、アイヌ語はまだ誰も手を付けていない学問分野の研究をしていて大変なことがあったのに、ひるむことなく少しずつ研究を進めていったことに感動した。私なら、投げ出してしまいそうになるが、京助は支援してくれた人の気持ちを背負って研究を続けていったところから並々ならぬ努力を感じた。私もこんな人になりたいと思った。

【深沢紅子】

紅子さんの家が焼けて今まで少しずつ書いた 500 個くらいの作品が無くなってもそれは神のお告げだと信じてまた絵を描き続けて前向きに生きる姿がすてきだなと思いました。私はすぐにあきらめてしまうことがよくあるのですごく学びがありました。さらに、「誰かのためにがんばりたい。」という戦争後の気持ちは意外と簡単なようで簡単ではないときもあります。それでも紅子さんの勇気を振り絞って立ち上がる姿に学びました。

【舟越保武】

利き手が不自由になっても、くじけずにもう片方の手で彫刻をし続けたことが心に残った。たとえどんなことがあっても、自分の進みたいと思った道を進み続けるという強い信念が伝わってきて、どんなにくじけようとも、また起き上がって何度でも前を向いて生きていけるということを学んだ。

- ・これからどんな人になりたいか、どのような生き方をしたいか

【宮沢賢治】

これからは宮沢賢治のような人になりたいです。人々を思う気持ち、自分まで犠牲にしてみんなを守る気持ちがある人になりたいです。他にも、ある人から影響を受け、それに夢中になる生き方もあまり悪くないと思いました。

【米内光政】

光政のように、他人の意見に流されたりせず、自分の意志や意見をしっかりと相手に伝えられるようになりたい。光政は国が大変な状況になりそうときに内閣総理大臣を務め、国民のために尽くしたということから、私も自分の人生や命をかけて、みんなのためになるようなことをしていきたいと思った。

【葛西萬司】

日本に新しい取り組みや技術を文明が発達している欧米などから技術を会得したいと考えたのは、「家庭や地方や都市に広く伝えて暮らしを便利にしてあげたい。」という思いがあったからだと思った。だから、先人としても誇ってもらえるような人になったのだと思う。自分のことだけを考えずに客観的に周りを見渡して、今やるべきこと、実践すれば良いことを考えながら行動し、みんなのために尽くすことを学んだ。日本や世界の役に立てるような行動や人柄を尊敬できる人になることと、それを少しでも実践できる人になりたい。

【三田俊次郎】

私は、これからの人生で三田俊次郎のように誰かや何かのために必死になって頑張れるような人になりたいと思った。努力してむくわれるのには時間がかかるかもしれないけれど、それ乗り越え努力することに無駄なことはないということを大切に、何事も頑張っていきたい。努力しても楽しくないこともたくさんあると思うから頑張っていくのもすごく大切だと思うけど、自分が好きなことにもとことん取り組んでいきたい。三田俊次郎の先人学習を通し、前の自分とは別な自分の考えになり、考え方が変わったんだと感じた。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・中学校区で、小中の学習内容を交流するととてもよい機会になった。
- ・これまでの本校の先人教育をベースに「夢」「希望」「志」の自己評価メーターを入れたことで、直接生徒に意識させることができた。また、「つけたい力」も自己評価させたことで、自分を客観的に見ようとする姿勢がみられた。
- ・先人教育を通して、先人のターニングポイントを考え、人の生き方に学びながら、自分自身にも目をむけさせることができた。

(2) 課題

- ・先人学習がさらに効果的なものになるように中学校区で学校全体として連携を深めていくことが必要である。
- ・9年間の先人教育が系統的行われるように、各学年、学校間の実践の交流を行い、職員の共通理解を深める必要がある。また、継続して行われるような組織の構築が必要である。
- ・小学校での先人教育をさらに発展させて先人の生き方に迫るには時間的に少し足りなかった。また、調査活動で先人によって展示資料が不足していたため、ネット検索での学習が多くなってしまった。
- ・先人教育を発展させ、地元に着着をもち、郷土を愛する気持ちをしっかりと育成するまでにはさらなる取組が必要だと感じた。

先人教育全体計画

盛岡市立北厨川小学校

児童の実態	学校教育目標	盛岡市教育ビジョン
・明るく元気で素直な子どもが多い ・学力差が大きい ・「走る」「投げる」力の低下 ・高学年ほど夜型が多い。	・進んで勉強する子ども ・みんなを思いやる子ども ・ねばり強くがんばる子ども	「多くの先人を育んできた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人」

盛岡市先人教育の目標
・盛岡の先人の生き方を学ぶことを通し、より高い価値を志向していこうとする豊かな心を育てる。 ・多くの先人を育んできた郷土について、自然の美しさや高い文化、人々のもつあたたかさを知り、ふるさと盛岡への誇りを持つ。

めざす子ども像		
1・2年	3・4年	5・6年
「盛岡の先人」や地域の中でお世話になっている人に関心を持ち、郷土の文化や生活に親しみと愛着をもつ子ども	「盛岡の先人」の生き方を学び、それを育んだ盛岡の風土を誇りとし、郷土を愛する心をもつ子ども	「盛岡の先人」や郷土の発展に尽くした人に関心を持ち、郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心をもつ子ども

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
教科			社会科 「わたしたちのまち盛岡」	社会科 「わたしたちの岩手県」	社会科 「伝統工業」	国語科 「宮沢賢治の作品」 短歌・俳句 社会科 「日本の歴史」 見学もある
生活・総合		「しゅっぱつなかよしたんけんたい」 (学区探検をしよう)	作物バンザイ (東北農業研究センター) 発見！盛岡のよいところ レッツ！さんさ	盛岡の先人たちを紹介しよう		
道徳	「さんさのおとがきこえるよ」 「やまぼとのうた」 「ひろがるえがお」 「ごみをひろうももこ」 「チャグチャグうまっこ」 「さけがもどる川」 「かたくりの花」	「安比高原の出会い」 「おじいさんがわらった」 「お父さんからの電話」 「コンのひまわり」 「ひまわりさんありがとう」 「けんじのいちごばたけ」 「ひとりぼっちのポー」	「おらが育てる～小田嶋熊吉～」 「心に決めて～田中館愛橋～」 「手を取り合って笑顔で」 「わすれかけていたもの」 「わたしのすきな山・川～江間章子～」 「浪板神楽」 「ぼくの手のひらの上で」	「岩手に盲学校を～柴内魁造～」 「押せなかった車いす」 「ゆめのかけはし」 「わたしたちの誇り世界遺産」 「あの景色をもう一度」 「野の花に思いをよせて～深沢紅子～」 「五十年後への贈り物」	「日本一の復興」 「ずっとわすれない」 「雪谷川のはんらん」 「ふるさとの道をひらく」 「よみがえった街並み」 「ふぶきの夜」 「鳥のまなざし～葛精一～」	「天に続く道～松本竣介～」 「近代製鉄の父～大嶋高任～」 「卒業制作100点満点」 「ボーイスカウトに希望をたくして～後藤新平～」 「虎舞」 「村のお医者さん」 「早池峰の自然を守る」

その他	・学校給食(先人にちなんだメニューを取り入れて、学校放送等で知らせる。) ・掲示活動(先人コーナーを設置し、日常的に先人について目に触れるようにする。) ・コンクールへの参加(「子どもと話そう ～ 親子の架け橋・一筆啓上～」へ4年生の参加。) ・学習発表会(盛岡の先人を取り入れた発表も考えられる。)
家庭・地域との連携	・北陵中学校区小中あいさつ交流(6月～11月) ・PTA奉仕作業 ・地域一斉奉仕活動(年2回)

北陵中学校区各校との連携

学 校 名	盛岡市立北厨川小学校	児 童 ・ 生 徒 数	228 名
研究主題	先人の「生き方」や「考え方」を学び、 よりよい生き方を志向していこうとする児童の育成 ～「みたけのこ 子ども憲章」を通してウェルビーイングに～		

1 研究主題設定の理由

盛岡市のめざす市民像は、「多くの先人を育んできた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人」である。学校教育は、「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「たくましい体（体）」の3つの力をバランスよく育むことを目標としている。盛岡市の先人教育は、学校の全教育課程の中で先人について学ぶことを通して、「将来の夢」や「ふるさとに対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育むことを目標としている。

そこで本校では、先人教育や地域について学ぶ学習の中に「よさ」を見いだす時間を位置付けることで、自他を尊重し地域や社会のつながりの中で、個人の幸せや生きがいを感じられるようになってほしいという願いをこめて本主題を設定した。

2 研究の目標

- (1)盛岡の先人の生き方を学ぶことを通し、より高い価値を志向していこうとする豊かな心を育てる。
- (2)多くの先人を育んできた郷土について、自然の美しさや高い文化、人々のもつあたたかさを知り、ふるさと盛岡への誇りをもつ。

3 研究の基本的な考え方

(1)本年度の重点

- ・各教科、道徳、総合的な学習の時間を通して、周囲の方々に感謝や尊敬の念を抱くような指導を行う。
- ・様々な行事の取組や活動において、先人教育の視点で指導や評価を行う。
- ・北陵中学校区統一の学習過程㊦（考えよう 今日の学習）㊧（学習課題をつくろう）㊨（やってみよう 自分の力で）㊩（くらべてまとめよう みんなの力で）㊪（よさを見つけよう 自分と友達）に沿った指導ができるように計画を立てるとともに、特に、㊪ を充実させる。

(2)小中連携の工夫及び配慮

北陵中学校区で統一した「みたけのこ 子ども憲章」を先人教育の柱に据えて各校で取り組むこととした。以下は、先人教育の重点と「みたけのこ 子ども憲章」の関わりである。

みたけのこ 子ども憲章	盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を
㊦つけよう 自分のよいところ たからもの	夢 将来に対する希望。実現したいという願い。自分のめざす理想。(㊦) 誇り 自分や自分のふるさとに対する愛着。自信。(㊦ ㊧ ㊨) 志 目的や信念をもって実現に向けて努力しようとする決意 豊かな心 自分と同じように他の人も大切にできる。「夢」「誇り」「志」を支える土台となるもの。 (㊦ ㊧ ㊨)
㊧くさんの あいさつ聞こえて いいきもち	
㊨んかして ごめんね言える 優しい子	
㊩びのびと 育てみんなの 心とからだ	
㊪こにいる みんなと自分を 大切に	
㊫うしたの その一言が うれしいね	
㊬くひょうを かかげてめざす ぼくの夢	

4 取組の概要

単元名	「さんさのおとがきこえるよ」(道徳) 🔊つけよう 自分のよいとこ たからもの	学年	1 学年
-----	---	----	------

(1)ねらい

郷土の文化や生活に親しみと愛着をもち、自分が好きなことを続けたり何かができるようになったりすることのよさが分かり、自分ができることに取り組み続けていこうとする心情を育てる。

(2)指導計画

- ・ 「自分が好きなこと」「今がんばっていること」を伝え合う。
- ・ 郷土のお祭り「盛岡さんさ」について、どんなお祭りなのかを知る。
- ・ 自分が好きなことを続けたり、何かができるようになったりすることのよさについて考える。

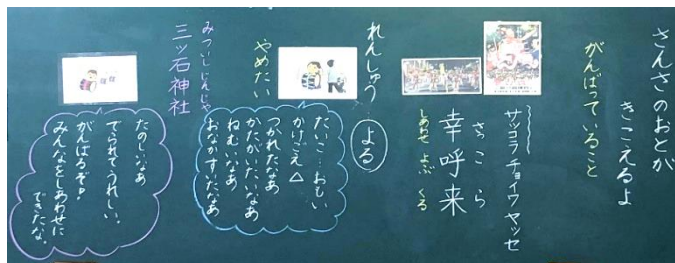
(3)活動の様子

導入では、「自分が好きなこと、今がんばっていることは何ですか。」と子どもたちに聞くと、たくさんの子が挙手をして進んで発表をした。柔道や剣道、水泳、ピアノなどの習い事や、小さい弟妹のお世話やお母さんのお手伝いなど、それぞれが頑張っていることを伝え合い、子ども達はお互いの発表を興味深く聞いていた。そして、みんなと同じように好きなことをがんばっている2年生の女の子「なっちゃんの話」を読み聞かせた。

郷土のお祭り「盛岡さんさ踊り」は、ほとんどの子が見に行ったりニュースで見聞きたりしており保育園の団体として参加したことがある子もいたが、由来を含めてどんなお祭りなのか知っている子は少なかった。そこで、ポスターやパレード・三ツ石神社の写真、紙芝居などを用いて、「盛岡さんさ踊り」について学ぶ活動を行った。子ども達が特に興味をもったのは、羅刹という鬼が出てくるさんさ踊り由来の昔話や「岩手」の名前の由来、「幸呼来チョイワヤッセ」という掛け声の意味だった。初めて知ることによってどの子も興味津々で、目を丸くして聞いていた。



ポスター



本時の板書



三ツ石神社

資料の登場人物「なっちゃん」が、重い太鼓を背負って叩く夜の練習がつらくて「やめたいな」とくじけそうになった気持ちに共感しつつ、さんさの由来を知って再びがんばった姿に感動して「あきらめないで頑張り通したなっちゃんはすごいな」「やめなくてよかった」「ぼくも今がんばっている〇〇をがんばろう」という感想（気持ち）をもつことができた。

(4)考察

- ・ 盛岡さんさ踊りに込められた意味や歴史を知ることにより、「盛岡さんさ踊りのことをもっと知りたい。」「お祭りを見に行きたい。」「自分もさんさ踊りに参加してみたい。」という気持ちをもった児童がたくさんいた。
- ・ 登場人物のなっちゃんのように遅い時間に練習を頑張っている子も多く、「やめたいな」という気持ちにしっかり共感することができた。だからこそ、あきらめないで頑張り通した姿に感動して、「自分も今のがんばりを続けていこう。」という気持ちをもたせることができたと思う。

単元名	「どきどきわくわくまちたんけん」「もっとなかよしまちたんけん」 ㊟ ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ㊿ ここに いる みんなと自分を大切に	学年	2 学年
-----	---	----	------

(1) ねらい

- ・学区内のさまざまな場所に出かけ、地域にはどんな場所があり、人がいるのか調べたり自分達の生活と関わっていることに気付いたりする。
- ・調べたりインタビューしたりすることを通して、自分達の地域に愛着を持ち、町のために働いている人がいることやその人たちの思いについて知り、好きな場所や地域の良さを伝えることができる。

(2) 指導計画

学習段階	時数	学習内容
5～6 月	6 時間	・知っている町のお店や場所について話そう。 ・お気に入りの場所を見つけるために、探検に行く計画を立てよう。 ・挨拶や安全に気を付けて、探検に行こう。 ・見つけたお店や場所について、地図にまとめよう。
9～10 月	10 時間	・詳しく知りたいお店や場所を決めて、調べよう。 ・インタビューをするための、質問や計画を立てよう。 ・礼儀やマナーに気を付けて、インタビューに行こう。 ・調べて分かったことや知らせたいことを個人でまとめよう。 ・お店の情報や働く人の思いを載せたチラシを作って知らせよう。

(3) 活動の様子

- ① 1 回目の町たんけんでは、国道を挟んで東側と西側で行った。普段登下校でその道を歩かない児童も普段歩いている児童も、じっくり見てみると意外と知らなかったお店があったり場所を知っていても看板や飾りなど、新たな発見があったりした町たんけんとなった。また、発見したお店で、学校ジャージや靴を買ってもらった思い出などを児童同士で話し、身近な地域の人々に、生活が支えられていることを実感していた。
- ② 2 回目の町たんけんでは、ケーキ屋さんに絞って活動をした。「みんなに知らせたい」という思いのもとお店について調べ、インタビューし、まとめた。活動を通して、町の人々の思いに気付き、「今度お家の人と行ってみよう。」と話すなど、さらに町への愛着をもつことができるようになった。



(4) 考察

初めは、自分が知っている場所やお店を友達に伝えたいという気持ちで活動を行っていた。しかし、友達と話したり、まとめたりすることを通して、学区にあるお店と自分達の生活との関わりに気が付いたり、働いている人の思いがあることを実感したりすることができるようになっていった。そういった気持ちが、チラシ作りの際に、チラシを見る人やお店の人の立場になって、地域の人たちが喜ぶ情報を載せようと、話し合って選別する姿に繋がり、自分達の町への愛着を深めることができる町たんけんの学習となった。

単元名	発見！盛岡のよいところ（社会科・総合的な学習の時間） ☺ここにいる みんなと自分を大切に	学年	3 学年
-----	---	----	------

(1)ねらい

私たちが住む盛岡について調べ、その特徴やよさについて考える。

(2)指導計画（15 時間）

段 階	内 容
導入（1 時間）	・私たちが住んでいるまちを紹介し合い、もっと知りたいことを出し合い学習計画を立てる。
展開（12 時間）	・社会科見学で盛岡駅や内丸、太田、川目、盛南地区を見学する。 ・それぞれの土地やまちの様子をさらに調べる。 ・りんご農家を見学し、生産者の思いや願いを知る。 ・スーパーマーケットを見学し、お店で働く人の思いや願いを知る。
終末（2 時間）	・調べたことを集めて、班でポスターを作る。 ・発見した、盛岡のよさを意見交流する。

(3)活動の様子

- ・見学を通して、まちのよいところだけでなく、そこで働く人々のまちに対する思いや願いを聞くことができた。スーパーマーケットでは、副店長に児童が「なぜ、ここに就職したのですか？」と尋ねた。すると「ここに住むまちの人の役に立ちたいから」という想像していなかった答えが返ってきて、感銘を受けた児童も多かった。

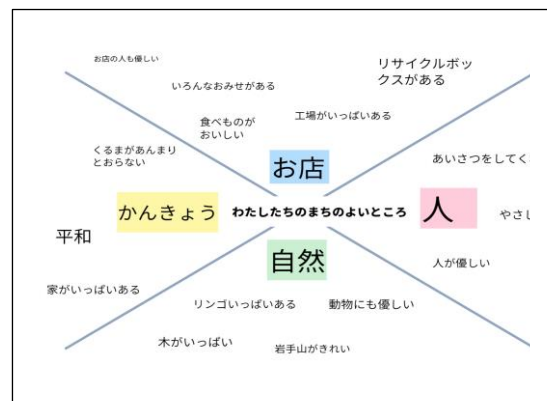
【児童の振り返り】

自分の家じゃないのに、落ち葉を取ってくれたり、いろいろな人が声をかけてくれたりして、人の優しさがあるところがいいところだと思いました。	お店の人だけでなく、買い物に来ている人も私たちのインタビューにみんな優しく答えてくれて、親切な人がたくさんいてここに住んでいてよかったと思いました。
---	--

- ・今までの活動を振り返り、自分たちの住むまちのよいところを考えさせた。ロイロノートのシンキングツールを使って、共有ノートでお互いの考えを交流した。



学びの交流



ロイロのシンキングツール

(4)考察

- ・たくさんのお店を通して、自分たちの住むまちに興味をもつことができた。
- ・見学の際に、働く人々の思いや願いを知ることにより自分たちの住むまちに対する見方が変わった児童が増えた。
- ・たくさんのお店の意見を交流するために、ロイロノートのシンキングツールの使用は効果的であった。

単元名	「盛岡の先人たちをしょうかいしよう」(総合) ⑤くひょうを かけてめざす ぼくの夢	学年	4 学年
-----	--	----	------

(1)ねらい

盛岡の世界に誇る「先人」について調べ、その生き方や考え方、功績についてまとめたり発表したりすることを通して、これからの自分の生き方の標とする。

(2)指導計画

時間	学習内容
1	オリエンテーション (学習の見通し)
2～4	課題の設定 (教師の先人授業をもとに、調べたい先人を決める。)
5～21	課題の追求 ①年表を作成する。 ②出会った人、影響を与えた人について調べる。 情報の収集 ①盛岡の先人 ②先人について書かれた図書資料 ③インターネット ④見学で実物を見る
22～25	整理・まとめる、情報をまとめる 端的に表現できるようにすごろくにする。
26～28	交流 作成したすごろくに取り組み、調べたことを交流する。
29～30	振り返り 自分の学びをシートにまとめ、これからの生かしたいことを記録する。

(3)活動の様子

<課題の設定>

学習経験の浅い4年生にとって、「盛岡の先人」は内容が高度である。そのため、課題設定の動機付けのために「盛岡の先人」の概要について授業を行った。子どもたちは、それをもとに自分の興味関心に沿って、誰について調べるかを決定した。

子どもたちは、誰がどんなことをしたのか、どんな価値があったのかを端的に知ることができ、それぞれの思いをもってだれについて調べるか決めることができた。

<課題追求>

課題別グループに分かれ、資料を読んだり、分からないことを調べたりした。分担して問題を調べたり、それぞれの得意な方法(辞書、図書、インターネット等)で調べたりして深め合うことができた。

<まとめ>

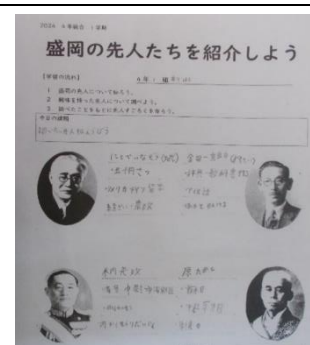
事実を年表に整理した。その後、事実と事実をつなぐ出来事を想像した。「なぜ?」「どうして?」と疑問をもち、その疑問に対する答えを一人で見つけたり友達と話し合ったりすることで課題を解決した。想像ではあるが、根拠をもって話し合うことで、その先人の人となりや考え方に迫ることができた。

<発信・交流>

すごろくを各グループで作成した。発表後、互いのすごろくで交流した。ゲームをしながら他のグループが調べた先人についても学び合うことができた。

(4)考察

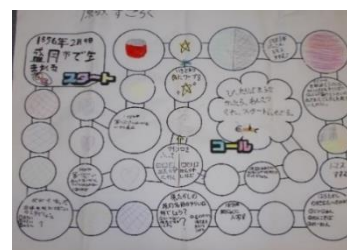
- ・学習経験の浅い4年生にとって「時代背景」を理解することは、かなり難しいことである。また、偉業をなした先人に対しても距離を感じやすい。そのため、導入の工夫、ゴールを身近なものにすることは有効だった。
- ・本校の研究主題「かかわり」を総合的な学習の時間でも意識して設定した。個人で課題追求をすると、進度の差が大きくなることが多いが、グループでの関りを大切にしながら課題追求することは有効だった。



<課題設定のためのノート>



<グループ学習の様子>



<グループで作成したすごろく>

単元名	「～太平洋のかけ橋～新渡戸稲造」(道徳) ㊦ くひょうを かかげてめざす ぼくの夢	学年	5 学年
-----	--	----	------

(1) ねらい

日本と世界との文化交流に尽力した先人の生き方から学ぶことを通して、他国の人々や文化について理解し、国際親善に努めようとする心情を育てる。

(2) 指導計画

- ① 4年生の時に作成した先人すごろくを紹介し、登場した先人たちの偉業について想起させる。
- ② 道徳科「～太平洋のかけ橋～新渡戸稲造」を通して、新渡戸稲造の生き方や考え方に触れ、国際親善に努めようとする心情を養う。
- ③ 学んだことをかかわらせながら、これからの生活に向けて実践意欲を高める。

(3) 活動の様子

4年生の時の学習を思い出し、新渡戸稲造だけでなく、米内光政や原敬などの先人たちなど、岩手県から多くの人物が日本や世界で活躍していたことを思い出すことができていた。4年生の時に取り組んだ先人すごろくは、グループごとに先人を選んで作成したすごろくであったため、新渡戸稲造については、その功績を知っている児童とそうでない児童がいた。そこで、道徳教材となっている「～太平洋のかけ橋～新渡戸稲造」を読み、その功績を確かめた。「新渡戸さんが懸け橋となるために大切にしていたことはなんだろう」という問いに対して、「性別や年齢、人種などで差別しないこと」や「日本の良さを知ってもらうだけでなく、相手の良さを知ろうとする心」などの意見がだされ、新渡戸稲造が今の国際情勢にも通ずる考え方を当時からもっていたことに感心する様子が見られた。さらに、「新渡戸さんの生き方で自分に生かすことができることはどんなことだろう」の問いには、「男女関係なく仲良くすること」や「勇気をもつこと」、「なりたい自分を目指す」などの発言があった。

(4) 考察

子どもたちは、4年生までに総合的な学習の時間で「先人すごろく」作りを行っていた。そのため、盛岡市には偉大な功績を残した人々がいることを知識としてもっていた。今回は、道徳科で扱うことで一人の人物を通して自己の生き方を見つめる時間とすることができたと考える。一つ目の問いでは、新渡戸稲造というフィルターを通しているため、少し抽象度の高い言葉で新渡戸稲造の生き方を考えたが、二つ目の問いで自己の内面にベクトルを向けたことで、新渡戸稲造から学んだことがより身近なこととして、「自分だったら」の平易な言葉に置き換わって表出してきた。この二つの問いによって、ねらいの③により近づく様子が見られた。また、先人は盛岡市の出身とはいえ、先人≡偉人として遠い存在であった部分もあったが、道徳の授業で実践することによって、「先人も今の自分にとって大切な生き方につながる考え方を持っていた」「自分もそのような人物に近づきたい」という希望をもつことにもつながっている様子も見られた。

単元名	「自分の住んでいる町の魅力発見 みたけるるぶをつくろう」(総合) ㊦くひょうを かかげてめざす ぼくの夢	学年	6 学年
-----	---	----	------

(1)ねらい

自分の住んでいる街を「見る・食べる・遊ぶ」の視点から追究することを通して、魅力を発見すると共に、地域への発信を行うことで、自己の生き方を考える契機とする。

(2)指導計画 (本単元は、3段階で行っており、本稿は2段階目のみを記載している)

時間	学習内容
1	オリエンテーション (学習の見通し・夏休みの追究活動)
2	ゲストティーチャーの講演 (魅力とはどういうものか・みたけ地区の魅力とは・みたけ地区の魅力的な場所等)
3～4	課題の設定 (追究課題 (見学場所) の設定を行う 追究計画・追究方法の決定)
夏休み	追究活動・情報の収集
5～7	夏休み明け (整理分析・まとめ)

(3)活動の様子

①地域のゲストティーチャーの活用

2時間目に、地域で活動している菅原さんをゲストティーチャーをお招きし、ご講演いただいた。

子どもの感想

- ・自分が住んでいるところだけではなく、広いみたけ地区には、たくさんの魅力的な場所があることが分かった。自分でも調べたいところが見つかった。(課題設定力の育成)

子どもの作品

- ・魅力は、良いところだけかと思っていたが、課題も魅力になることが分かった。みたけ地区の課題を考えてみたい。(学び方の拡大)

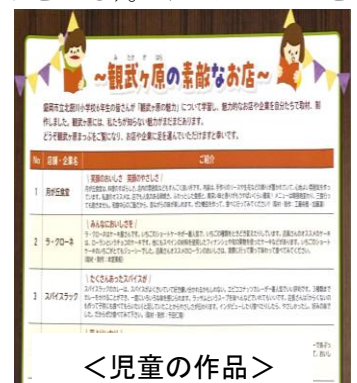


＜出前授業の様子＞

②実社会とのつながりのある発信活動

夏休みに26ヶ所の追究活動を行った (子どもたち自身が、授業中にアポイントをとる)。インタビューをしたり、実際に活動をさせていただいたりし、体験を通して情報を収集することができた。しかし、追究活動は、うまくいかないことも多く修正を図りながら努力を続けていった。

夏休み明けには、その情報をもとに、地域で行われる「観武ヶ原まつり」で配布されるパンフレットに、調べた内容をまとめ発信を行った。キャッチコピーと短い文章にまとめることで、内容を精査しながら、分かりやすい表現を心がけた。特に、インターネットや資料で調べられることなく、実際に訪れて明らかになったその方の思いや願いにこだわって記載していた児童が多かった。



＜児童の作品＞

(4)考察

- ・本校で身に付けさせたい力である、『ひと・もの・こと』と関わりながら自己の生き方を振り返ろうとする力 (関わる力) を育成することができた。方策として、自分たちの街の魅力を追究するという目標に向かい、地域に住む多様な方と関わりながら、情報を得て発信するという一連のオーセンティックな学びを構造化 (単元構成の工夫)することで、この力を育成することができたと考える。
- ・地域の良さや魅力は、一朝一夕で出来上がるものではなく、多くの先人の苦労や努力の上に成り立っている。子どもたちは、地域に足を運び、多様な関わりを通して、街の良さや地域の魅力を追究しようとすることで、苦労や努力といった先人の生き方に触れることができた。そして、地域の良さや魅力を知ることによって、地域に愛着と誇りを持つことができるようになってきている。
- ・本単元は、学習場面が身近な地域であり、子どもが生活している実社会である。実社会において、自己の学びを醸成するために働かせた課題追究力や課題設定力は、これからの未来を切り拓く子どもに育みたい力であり、換言すれば、自己の夢を実現するために必要な力である。
- ・これら3点から、本単元は、「もくひょうを かかげてめざす ぼくの夢」の実現に大きく寄与することができた。

5 成果と課題

(1) 児童アンケートの結果

質問内容	県学調 R 5 (%)	全国学調 R 6 (%)
あなたは、将来の夢や目標をもっていますか。	81	86
自分には、よいところがあると思いますか。	78	78
人が困っているときは、進んで助けようと思いますか。	100	100
自分の住む地域には、よいところがあると思いますか。	97	

(2) 成果

- ・全国学調、県学調のアンケート結果から、昨年度よりも夢や目標をもつ児童が、やや増加している。
- ・各教科、道徳や総合的な学習の時間のねらいと先人教育の目標との関連を明確にしながら学習を進めることができた。
- ・中学校区で共通の目標を掲げたことにより、共通の取組、継続した取組につなげることができた。

(3) 課題

- ・学習課題を自分でたてられるようにすること。
- ・の場面で、意外性や発見があるように仕組むこと。
- ・I C Tを活用し、児童の考えの交流や深め合い、認め合いが効果的に展開されるようにすること。

学 校 名	盛岡市立城北小学校	児童・生徒数	511 名
研究主題	先人教育を通した「活力ある城北の子」の育成 ～「みたけの子 子ども憲章」の視点を生かした教育活動の実践を通して～		

1 研究主題設定の理由

盛岡市が目指す市民像は「多くの先人を育んできた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人」である。この目指す市民像に迫る方途の一つとして先人教育をあげている。盛岡市の先人教育は、各教科や道徳、総合的な学習の時間などの全教育課程の中で、原敬や新渡戸稲造、米内光政などの盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育むことをめざしたものである。

本校は、学校教育目標を「自他共に尊重し、主体的に未来を切り開く、心身共にたくましい『活力ある城北の子』の育成」とし、教育活動を行っている。本校が目指す児童像は、盛岡市が目指す市民像と重なる部分が多くある。つまり、盛岡の先人や郷土の発展に尽くした人の生き方や考え方について学ぶこと、地区の豊かな自然及び地域の方々とのふれあう先人教育の取組は、本校の学校教育目標実現の方途の一つになるといえる。そこで、教育課程に「盛岡の先人」を位置付け、発達段階に応じた実践を行うことで「活力ある城北の子」の育成をめざすことができると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

郷土盛岡のよさを探求するとともに盛岡の先人の生き方を学ぶことにより、自他共に尊重し、主体的に未来を切り開く、心身共にたくましい「活力ある城北の子」を育てる。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

先人教育の視点と各教科等・総合的な学習の時間と関連させた学習活動の充実を図る。その際、子どもたちが地域に根差して成長し、「活力ある城北の子」になるよう、みたけ地域で作成された「みたけのこ 子ども憲章」の視点を生かす。

※ 「みたけのこ 子ども憲章」は平成 28 年度

に北陵中学校区 4 校（北陵中・城北小・月が丘小・北厨川小）の子どもたちと保護者から「目指すみたけのこ子ども像」を募り作成されたもの。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・ 北陵中学校区の小・中学校 9 年間の系統性を整えるために「みたけのこ 子ども憲章」の視点を生かした教育活動を実践する。
- ・ 北陵中学校区 4 校の担当で話し合いを綿密に行い、連携を図る。

みたけのこ子ども憲章

み・・・見つけよう 自分のよいところ たからもの
た・・・たくさんの あいさつ聞こえて いい気持ち
け・・・けんかして ごめんね言える 優しい子
の・・・のびのびと 育てみんなの 心とからだ
こ・・・ここにいる みんなと自分を 大切に
ど・・・どうしたの その一言が うれしいね
も・・・目標を かかげて目指す ぼくの夢

4 取組の概要

単元名	みんなのこうえんで あそぼう 「みたけのこ」視点 ～ここにいるみんなと自分を大切に～	学年	1 学年
-----	---	----	------

(1) 単元のねらい

「ここにいるみんなと自分を大切に」に関わって、本単元では、校庭及び運動公園の豊かな自然や小動物とのふれあい活動を通して、子どもたちに自然を生かした遊びの楽しみや地域の自然の良さに気付かせる。

(2) 指導計画

月	学習活動（時数）
5 月	・ 校庭の木々や植物を見たり、生き物とふれ合ったりして自然に親しむ。（2）
7 月	・ 運動公園の園庭の見学をしたり、遊具で遊んだりして地域の自然に親しむ。（2）
9 月	・ 校庭の木々の様子の変化に気付き、秋の生き物に親しみをもつ。（2）
11 月	・ 運動公園の園庭を見学し、夏の様子との違いに気付き、落ち葉や木の実を拾い楽しむ活動を通して、季節の遊びに親しむ。（2）

(3) 活動の様子

① 春の校庭探検の様子

校庭の木々や草花の様子を観察し、春の草花に親しむことができた。
タンポポ摘みやクローバーの花作りをして楽しむ様子が見られた。

② 夏の運動公園の探検の様子

運動公園の中の園庭では、蓮の花が満開になっており、子どもたちの歓声が上がった。また、リスやトンボなどにも遭遇し、自然に親しむことができた。広場には、近くの保育園の園児達もおり、仲良くルールを守って遊具で遊んだり、散歩している地域のお年寄りに声を掛け合いながらふれ合ったりする姿が見られた。

③ 秋の校庭探検の様子

松ぼっくりを拾ったりきれいに色づいた落ち葉を拾ったりして夏との違いに気付くことができた。トンボを捕まえようと駆け回ったり草花で遊んだりする子どもたちの姿も見られた。見つけた虫の様子を写真に撮り、みんなで紹介し合うこともできた。

④ 秋の運動公園の探検の様子

並木の銀杏が黄色く色づいたのに気付いて、子どもたちの喜ぶ姿が見られた。また、ドングリや松ぼっくりは、学校の校庭の物よりも大きく、種類も豊富でビニール袋いっぱいに拾い集める様子が見られた。また、カモやおしどりの野鳥もおり、季節の変化に気付くことができた。天候にも恵まれ、他の保育園児や幼児を連れた親子もたくさんおり、楽しくふれ合うことができた。帰校後は、落ち葉や木の実を使ったおもちゃ作りに挑戦し、楽しむことができた。

(4) 考察

- ・ 地域の環境をいかした活動を工夫したことで、子どもたちが活発に学習に取り組む姿が見られた。
- ・ 樹木や草花、昆虫やリスなどの小動物の姿を通して、季節の変化を子どもたちが触れることで、自然や地域に対する親しみや感謝の気持ちをもつことができた。
- ・ 偶然の出会いだけでなく、積極的なふれあいの場を工夫することでより地域の良さを感ずることができた。次年度以降の指導計画にも取り入れていく。

単元名	地域のおじいさん、おばあさんに学ぼう 「みたけのこ」視点 ～ここにいるみんなと自分を大切に～	学年	2 学年
-----	---	----	------

(1) 単元のねらい

「ここにいるみんなと自分を大切に」に関わって、地域の年配の方々から遊びを教わったり一緒に活動したりする中で、身近な人と関わる良さに気づき、進んで交流しようとする態度を育てる。

(2) 指導計画

月	学習活動（時数）
9 月	・ 「ゆうゆう大学」で学ぶおじいさんとおばあさんについて知り、活動の見通しをもつ。（1） ・ おじいさん、おばあさんと一緒に「風船実験」を行う。（1） ・ 活動のまとめとして、お礼の手紙を書く。（1）
10月	・ 学んだことをみんなに伝える。（学習発表会練習）（18） ※本単元の他に、生活科で学んだ3つの活動を発表。

(3) 活動の様子〈児童の振り返りを含む〉

地域の年配の方々が、風船を使った楽しい実験を考え出し、本校の2年生と一緒に活動を楽しんでくださった。児童は、年配の方々が年齢を重ねても元気な様子や知識の豊富さに触れ、さらに親しみと尊敬の気持ちを深めることができた。



① 「風船バスケットボール」

- ・ 風船にビニールテープをまいてドリブルをしたら、ポヨンポヨンとはずみました。
- ・ テープはりをてつだってくれて、ありがとうございました。

② 「風船クッション」

- ・ 圧縮袋の中に風船を入れて、空気をぬくと「風船クッション」ができます。10人のとても風船が割れないのでびっくりしました。
- ・ ぼくの班のおばあちゃんはとても元気で、やり方を丁寧に教えてくれました。ありがとうございました。



③ 「風船輪くぐり」

- ・ 風船の輪に風を当てると、風船がだんだん浮かんでできて、クルクルと回るので驚きました。
- ・ おじいさん、おばあさんになっても、勉強を続けているのがえらいなあと思いました。

(4) 考察

- ・ 2年生の子ども達は、地域の年配の方々が学び続けていること、自分達の学校生活を支えてくれていることに気付くことができた。
- ・ 学んだことを学習発表会で伝えることで、年配の方々と一緒に体験を共有する楽しさをあらためて実感することができた。



単元名	地域にとびだそう ～ぼくらジュニアパトロール隊～ 「みたけのこ」視点 ～ここにいるみんなと自分を大切に～	学年	3 学年
-----	---	----	------

(1) 単元のねらい

「ここにいるみんなと自分をたいせつに」に関わって、本単元では家族と一緒に自分の地区の危険箇所を調べ、地区ごとに安全マップを作り、発信をする活動を通して、子ども達に自他の関わりの大切さに気付かせる。

(2) 指導計画

月	学習活動（時数）
7 月	・ オリエンテーション（1）
8 月	・ 安全探検（4）
9 月	・ 安全マップ作り（9） ※発表練習や発表会も含む

(3) 活動の様子

① オリエンテーション

社会科で学区探検をしたことや、総合で地域の施設巡りをしたことを想起させ、安全マップ作りへの関心をもつことができた。また、安全マップ作りについて説明をし、「㊸交通事故が起こりそうな所」、「㊹犯罪が起こりそうな所」、「㊺その他危険と思われる所」について夏休みに探検して調べることを理解した。

② 安全探検

夏休み中に家族と一緒に自分の地区を歩き、危険な箇所を見つけたら、探検カードに「なぜ危険と思われるか」を記入した。

③ 安全マップ作り

グループごとに、自分たちが調べたことを交流し合った。友達と同じだったり似ていたりした場合は、誰のを採用するかを話し合った。その後3つの観点㊸㊹㊺に従って書き、拡大した地図に貼っていった。そして、分かりやすいように目印になるものも相談しながら書いたり貼ったりした。さらに誰がどの場所を発表するか話し合い発表練習をした。



④ 授業参観で発表

発表するグループと発表を聞くグループに分かれ、体育館でグループごとに発表した。お家の方にも聞こえる声で分かりやすく発表をすることができた。聞くグループもメモを取りながら真剣に聞き、初めて知った危険場所を確認した。

⑤ 振り返り

グループごとに、カードのまとめ方や発表の仕方はどうだったか、マップ作りから学んだことは何か等を振り返った。

(4) 考察

- ・ 親子で危険箇所を調べ、同じ地区同士で安全マップ作りをすることで、普段何気なく歩いている所にも危険が潜んでいることや、他地区の発表を聞いて、自分が知らなかった危険箇所を知ることができ、一人一人の安全意識を高めることができた。
- ・ 交通指導員さん、スクールガードリーダーの皆さん、地域の皆さん等、自分たちの安全を守ってくれている大人がたくさんいることに気が付き感謝の気持ちをもつことができた。また、大人になったとき自分もそういう仕事を進んでしたいと思えた児童もいた。
- ・ 自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたり、意見を出し合ったりするとより良いものができることを実感し、協力すること、関わり合うことの大切さを感じた。
- ・ 授業参観の時にスクールガードリーダーの皆さんも招待できるとさらに効果的だった。

単元名	郷土芸能に親しもう 「みたけのこ」視点 ～ここにいるみんなと自分を大切に～	学年	4 学年
-----	--	----	------

(1) 単元のねらい

「ここにいるみんなと自分をたいせつに」に関わって、盛岡さんさの歴史についての話を聞き、地域の文化を大切にしようとする態度を育てる。

(2) 指導計画 (35 時間)

月	学習活動 (時数)
4 月	・ 盛岡さんさについて知っていることを共有する。(5)
5 月	・ ゲストティーチャー「だらすこだん」の久保田さんからさんさについての話を聞く。(2) ・ さんさ踊りを体験して運動会で発表する。(15)
6 月	・ これらの活動を通して考えたことや感じたことを個人新聞にまとめる。(10)
2 月	・ 発表会を通して交流する。(3)

(3) 活動の様子

① 盛岡さんさについて知っていることを共有

さんさ踊りについて知っていることや調べたこと、習い事でさんさ太鼓や踊りの指導を受けている子たちが中心となり、情報の共有ができた。

② ゲストティーチャーの話を聞く

「だらすこだん」の代表である久保田さんをゲストティーチャーとして招き、さんさ踊りの歴史や踊りに込められた思いなどについて詳しく学ぶことができた。

③ さんさ踊り体験

「だらすこだん」のさんさ太鼓指導者の千葉さんから太鼓の打ち方とともに、大切な合わせ方について指導いただき、子どもたちも意欲的にさんさ太鼓の打ち方について学ぶことができた。同じく「だらすこだん」の太鼓と踊りの指導者の千葉さんから踊り方や掛け声の意味などについて指導していただいたことで、大きな掛け声と笑顔いっぱいの踊りができた。

④ 運動会での発表

運動会本番には、「だらすこだん」関係者（本校卒業生を含む）が 8 名参加して、さんさ太鼓と笛や鐘でさんさ踊りを盛り上げていただいた。また、盛岡さんさを伝承し、さらに盛り上げていこうという熱意を感じ自分たちも郷土芸能の伝承者の一人なのだという自覚をもつことができた。



⑤ まとめと発表

これらの活動を通して考えたことや感じたことを個人新聞にまとめる予定であったが、時間の制約等あり、指導していただいた関係者の方々へのお礼の手紙に思いをつづることでまとめとなつてしまった。また、発表については 3 学期に実施予定である。



(4) 考察

- ・ 運動会の演目というだけの取り組みではなく、さんさ踊りの歴史や伝承と発展に携わる方々の情熱にふれることで、子どもたちは主体的に学習に取り組む姿が見られた。
- ・ 社会や国語などの教科と関連付けて指導することで、教科横断的に先人教育を進めることができた。
- ・ 自分たちが得た知識や技能、感じたことや考えたことを情報として発信する機会や方法を考え、実施するところまでの取組にしていきたい。

単元名	「盛岡の先人を調べよう」 「みたけのこ」視点 ～目標を かかげて目指す ぼくの夢～	学年	5 学年
-----	--	----	------

(1) 単元のねらい

「目標をかかげて目指すぼくの夢」に関わって、盛岡にゆかりのある先人に対する誇りを持ち、先人の生き方を学ぶことを通して、目標をもって生きる心や努力する心を育む。そして、自分のよいところや好きなことを大切にし、支えてくれる人への感謝の心を育む。

(2) 指導計画（15 時間）

月	学習活動（時数）
6 月	・ 副読本「盛岡の先人たち」から、新渡戸稲造・米内光政・金田一京助・石川啄木・原敬についての人生史を読むことで、先人の基礎知識を学び理解を図る。（一人学び→共有）（6）
8 月	・ 道徳科「太平洋の架け橋 新渡戸稲造」を通して、新渡戸稲造の生き方や考え方から国際親善に努めようとする心情を養う。（1） ・ 印象に残った先人について、ロイロノートに個人の学びを書き込み、それを読み合うことで学びを共有する。（2） ※ 家庭学習を活用し、印象に残った人物をテーマに親子で「一筆啓上」に取り組んだ。
10 月	・ 単元のゴールとして学習発表会で児童の学びをまとめたオリジナル劇「それぞれの空」を発表することで、他学年の児童や家庭・地域の方々に成果を発信する。（6） ・ 学習をふり返る。（1）

(3) 活動の様子

- ・ 先人一人一人の生涯に触れ、一人一人が社会的、歴史的に成し遂げた偉業を理解することができた。
- ・ 先人給食放送やインターネットなどからの情報にも関心をもつことができた。
- ・ 学習発表会に向けた練習に取り組み、学んだことを表現し体現化することでより理解が深まり、意欲的に先人たちの思いについて考えていた。
- ・ 先人たちが抱いていた未来への思いが歌の歌詞になったような合唱曲をみんなで歌うことで、「伝える」ということについて具現化することができた。



【児童のふり返りから ※抜粋】

- ・ 興味をもったことを続けることが大切だと分かった。
- ・ 子どもの頃から頑張っていくことや、いろいろな場所での経験なども必要だと感じた。
- ・ 英語を勉強して外国でも生かせるように自分も挑戦してみたい。

(4) 考察

- ・ 副読本「盛岡の先人たち」は他の資料よりも読みやすかったようで熱心に学習に取り組んでいた。
- ・ 「学びを学習発表会で発信すること」が目的意識や相手意識を生み、主体的に学ぶ姿が見られた。
- ・ 児童の学びをオリジナル台本に作り上げるため、学習を1学期と2学期に学習活動を分割して行ったことが良かった。
- ・ 単元の導入で盛岡市先人記念館の出前授業を利用するか、もしくは実際に見学に行くなど外部の機関の活用を検討していく。

単元名	盛岡の先人に学ぼう 「みたけのこ」視点 ～目標を かかげて目指す ぼくの夢～	学年	6 学年
-----	---	----	------

(1) 単元のねらい

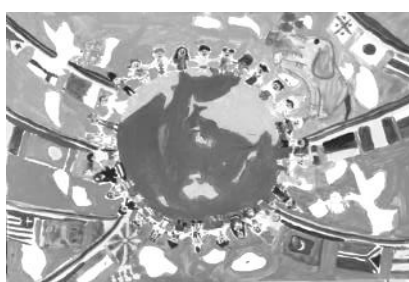
- ・ 「目標を掲げて目指す僕の夢」に関わって、本単元では世界平和ポスターの取組で世界の様々な文化を学んだり、新渡戸稲造の成し遂げた偉業を学んだりすることを通して平和や国際理解について考えを深める。
- ・ 新渡戸稲造の生き方やその偉業について知り、盛岡の先人への敬意とその誇りを感じるとともに、そこから自分の生き方や目標について考える。

(2) 指導計画（8 時間）

月	学習活動（時数）
9 月	・ 世界平和ポスターの取組を通して世界の様々な文化について理解を深め、自国との共通点や相違点に気付き、そのよさを認めるとともに平和や国際理解について考えをもつ。（3）
10 月	・ 新渡戸稲造が残した功績とその生涯を簡潔にまとめたアニメを視聴し、世界平和や国際理解について考えを深めたり、感想を交流したりする。（2） ・ 新渡戸稲造の性格や考え方、平和や国際理解について、動画視聴や感想交流を通して広がった見方・考え方も含めて、自分が学んだことや感じたことをまとめる。（3）

(3) 活動の様子

- ・ 世界平和ポスターに取り組むにあたって、ポスターでよく見かける白いハトや虹の意味について考えたり、世界の様々な文化についてインターネットで調べたりすることで世界と自国との共通点や相違点に気付き、平和や国際理解について自分の考えをもつことができた。
- ・ 公益財団法人藤井財団が企画している「世のため人のためシリーズ」から、新渡戸稲造が残した功績とその生涯を簡潔にまとめたアニメを視聴し、世界平和や国際理解について考えを深めたり、盛岡の先人の活躍によって今の生活があることを実感したりすることができた。
- ・ 「新渡戸稲造」の功績や生涯から、学んだこと、感じたことをまとめる活動を通して、平和や国際理解についての自分の考えを深めることができた。



(4) 考察

- ・ 平和ポスターとの関わりから学習に入ること、新渡戸稲造の功績と絡めながら平和や国際理解、盛岡の偉人について興味・関心をもって学習に取り組むことができたと考えられる。
- ・ 「世のため人のためシリーズ」の動画が分かりやすく簡潔であったため、新渡戸稲造が何を成し遂げ、今の暮らしにどれほど関わっているものなのかが伝わりやすく、先人への親近感や敬意を増すことにつながったり、新渡戸稲造の平和や国際理解への思いについてより深く考えたりすることができたと思われる。
- ・ 新渡戸稲造の生き方や考え方から、自分が平和のためにできることや自分の実生活に生かしていきたいことなど、自身のこれからの生き方や目標について考えることができた。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・ 子どもたちの学習の様子などから、先人教育の視点から学ぶことは、子どもたちが地域や郷土に誇りをもつことにつながると感じた。先人教育の視点は、本校の教育目標である「活力ある城北の子」の育成実現に欠かせないと再確認することができた。
- ・ 低・中学年は先人を地域の先達や先輩ととらえたり、地域内の公園をきれいに管理してくれているような暮らしを支えてくれている人と捉えたりして学習を展開することで、子どもたちが実際に見たり聞いたり体験したりすることができ、実感的に理解を深めることができた。また、身近な地域の自然や文化、伝統を大切にしていきたいという思いを高めることができた。
- ・ 高学年は、盛岡の先人の働きを深く学ぶことで、先人と盛岡の風土に対する誇りをもつことができた。
- ・ 先人教育と、生活科や社会科、総合的な学習の時間を関連付けながら学習計画を立てたことにより、発達段階に合わせて学習を進めることができた。特に第3学年では、社会科で行った地区探検を総合的な学習の時間に結び付けたり、第6学年では、図工と総合的な学習の時間を関連付けて指導を行ったり、教科横断的に学びを展開することができた。これは、先人教育の視点で様々な教育活動、教育課程をみることによって可能となったともいえる。また、カリキュラムマネジメントを行う上で必要な三つの側面のうちのひとつと合致するものであった。
- ・ 本研究に取り組むことが北陵中学校区の保護者の願いから作成された「みたけのこ 子ども憲章」を本校の教職員で再確認する機会となった。これは、学校と地域が緊密に関わり合い、さらに、地域から期待されていることを再認識する機会になったとも言える。

(2) 課題

- ・ 取り組みやすい教科等に偏った実践が多かった。子どもの育成状況に応じた学校重点を設定し、今後もさらに実践を重ね、多くの教科等で取り組めるようにしていきたい。
- ・ 先人教育においても、必要な人的・物的資源等を見つけ、効果的に活用していく視点が今後必要になってくると考える。

令和6年度「先人教育」全体計画

盛岡市立月が丘小学校

児童の実態 保護者・地域・教師の願い	学校教育目標	先人教育の目標 「夢」「誇り」「志」
・明るく素直で、思いやりのある優しい子が多い。 ・将来の夢や目標をもつ人に育てたい。 ・仲間と共に考え、行動する力を養いたい。 ・目標に向かって最後まで粘り強くやり抜く力を養いたい。	心身ともに健康で、よく学び、豊かな心を持ち、明るくたくましく生きていく子どもの育成 すすんで考える子（知） 思いやりのある子（徳） じょうぶな子（体）	・盛岡の先人の生き方を学ぶことを通し、より高い価値を志向していこうとする豊かな心を育てる。 ・多くの先人を育んできた郷土について、自然の美しさや高い文化、人々のもつ温かさを知り、ふるさと盛岡への誇りをもつ。

月が丘小学校 先人教育目標
(1)身近な地域の自然や人に関わることで、地域に親しみをもち、たくましく生きる力、豊かな人間性を育てる。 (2)先人の功績や生き方を知ることにより、自分の生き方を考える力を育てる。

先人教育で目指す子供像	
1～2年 身近な地域の自然や人に関わり、そのよさに気付き、 地域に親しみをもつ子ども	3～6年 先人の功績や生き方を知ることにより、自分の生き方 を考え目標をもつ子ども
重点目標	
1～2年 身近な地域や人について「誇り」をもつ子どもを育て る。	3～6年 盛岡の先人と盛岡の風土に対する「誇り」をもつ子ど もを育てる。

先人教育の位置付け			
各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
・がっこうだいすき （生活科1年） ・むかしからつたわるあそびをたのしもう （生活科1年） ・どきどきわくわくまちたんけん（生活科2年） ・もっとなかよしまちたんけん（生活科2年） ・わたしたちのまち盛岡 （社会科3年）	・げんきでね、あげはくん （道徳科1年） ・見つけたよ （道徳科2年） ・～太平洋のかけ橋～新渡戸稲造 （道徳科5年）	・盛岡市小中学生俳句・短歌大会への参加 （3年～6年） ・子供と話そう～親子の架け橋・一筆啓上～（親子読書）応募（4年） ・先人ゆかり給食（全校）	・石川啄木新聞（3年） ・金田一京助プロフィール表（4年） ・新渡戸稲造プレゼンテーション（5年） ・郷土の先人たちとわたしたち 原敬・米内光政新聞（6年） ・人に出会い、人に学ぶ～地域の先輩に学ぶ～（6年）
家庭・地域との連携			
・北陵中学校区各校との連携（先人担当者会議、実践内容をもとに、先人教育の全体計画・年間計画を改善） ・コンクールへの参加（子供と話そう～親子の架け橋・一筆啓上～【「盛岡の先人たち」親子読書】、盛岡市小中学生俳句・短歌大会への参加） ・先人ゆかり給食（先人にちなんだメニューを取り入れて、献立表で知らせる。） ・小中あいさつ交流（6月～11月） ・表現感謝集会での発表（5年「新渡戸稲造物語」） ・先人記念館等の利用・コミュニティスクールにおける人材活用			

学 校 名	盛岡市立月が丘小学校	児童・生徒数	217 名
研 究 主 題	先人の功績や考え方を学び、自己の生き方に生かす児童の育成 ～「みたけのこ 子ども憲章」の実現を目指して～		

1 研究主題設定の理由

盛岡市では、「多くの先人を育てきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人」を目指す市民像を掲げている。盛岡には優れた先人が多くいるが、日常生活の中でその業績や考え方に触れる機会は多くない。

そこで本校では、授業において先人の生き方等について学び、自己の生き方に生かし、よりよく生きていこうとする子どもに育てたいと考えた。さらに、北陵中学校区が目指す子ども像「みたけのこ子ども憲章」との関連を図ることで、北陵中学区の連携を強化できると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

- (1) 身近な地域の自然や人に関わることで、地域に親しみをもち、たくましく生きる力、豊かな人間性を育てる。
- (2) 先人の功績や生き方を知ることにより、自分の生き方を考える力を育てる。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

1～2年 身近な地域や人について「誇り」をもつ子どもを育てる。

3～6年 盛岡の先人と盛岡の風土に対する「誇り」をもつ子どもを育てる。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

北陵中学校区で統一した「みたけのこ 子ども憲章」を先人教育の柱に据えて、各校で取り組むこととした。以下は、先人教育のキャッチフレーズと「みたけのこ 子ども憲章」の関わりである。

みたけのこ 子ども憲章	「夢」「誇り」「志」との関わり
① みつけよう 自分のよいところ たからもの ② たくさんの あいさつ聞こえて いいきもち ③ けんかして ごめんね言える 優しい子 ④ のびのびと 育てみんなの 心とからだ ⑤ こにいる みんなと自分を たいせつに ⑥ どうしたの その一言が うれしいね ⑦ もくひょうを かかげてめざす ぼくの夢	「夢」 ① ② 将来に対する希望。実現したいという願い。自分のめざす理想。 「誇り」 ③ ④ ⑤ 自分や自分の故郷に対する愛着。自信。 「志」 ⑥ ⑦ 目的や信念をもって実現に向けて努力しようとする決意。

4 取組の概要

単元名	がっこうだいすき（生活科） 「誇り」㊦ににいる みんなと自分 大切に	学年	1 学年
-----	---------------------------------------	----	------

(1) ねらい

友達と一緒にあそんだり、学校の中を調べたり、そこにいる人々と交流したりして、学校の施設の様子や先生など学校生活を支えている人々がいることに気づき、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。

(2) 指導計画（18 時間）

小単元（時数）	学習内容
みんなで遊ぼう（3 時間）	友達の名前を覚えるために、名刺交換をする。
学校たんけんをしよう（9 時間）	学校探検を行い、それぞれの部屋の先生に挨拶をしたり、使い方を教えてもらったりする。
通学路たんけんをしよう（6 時間）	学校の周りを探検し、安全を見守る人々がいることを知る。

(3) 活動の様子

学区探検では登下校の時に安全を見守る人や信号、横断歩道など、自分の命を守るものがあることに気づき、自分たちが身近な地域の人に支えられているということを実感していた。

(4) 考察

身近な地域の人に支えられていることを実感する活動ができたことで、今まで挨拶を交わしていなかった方々にも声をかける姿が見られるようになった。

単元名	「もっとなかよしまちたんけん」（生活科） 「誇り」㊦つけよう 自分のよいところ たからもの	学年	2 学年
-----	--	----	------

(1) ねらい

地域で生活したり働いたりしている人々と交流する活動を通して、自分の生活が地域の人々や場所とかかわっていることや地域のよさに気づき、地域への愛着を深めるとともに、地域の人々と適切に接したり地域で安全に楽しく生活したりすることができるようにする。

(2) 指導計画（12 時間）

小単元（時数）	学習内容
たんけんの計画を立てよう（3 時間）	1 学期の探検に関わった人について、もっと詳しく知りたいことを考え、探検に行く準備をする。
町の人となかよくなろう（6 時間）	探検に行き、地域の人と繰り返しかわる中で、地域への思いや仕事の工夫に気づき、自分たちの地域にいる人々や場所に親しみをもつことができる。
仲良くなった人をしょうかいしよう（3 時間）	地域で仲良くなった人のことを伝え合う活動を通して、自分たちの地域のよさに気付くことができる。

(3) 活動の様子

紹介する方の「すごい技」や「みりょく」をみんなに伝えようと、くわしくインタビューをすることができた。さらに地域への愛着をもつことができるようになった。

(4) 考察

自分が知っている場所やお店から、友達が調べているお店へと興味が移り変わり、関心を町全体に広げることができた。「知らなかった場所には今度行ってみよう」など、町への愛着を深める活動になった。

単元名	わたしたちのまち 盛岡(社会科・総合的な学習の時間) 「夢」㊦びのびと 育てみんなの 心とからだ	学年	3 学年
-----	---	----	------

(1) ねらい

本単元では、盛岡市の様子を具体的に調べ、盛岡市の特色ある場所の地形、土地利用の様子、交通の様子を理解することを通して、盛岡市は場所によって違いがあることをとらえる。また、盛岡のよさや輩出した先人、石川啄木について調べ、新聞にまとめる。

(2) 指導計画 (15 時間)

段階 (時数)	学習内容
調べる計画を立てる。 (2 時間)	盛岡について知りたいことを出し合い、学習計画を立てる。
課題設定・探究活動 (8 時間)	社会科見学や探究活動を進め、課題を解決できるようにする。
発信活動 (5 時間)	調べたことを発表したり、新聞にまとめたりする。

(3) 活動の様子

社会科見学で、岩山公園の「啄木望郷の丘」を訪れたことをきっかけに、石川啄木について調べ活動を始めた。啄木の生地である玉山地区や学生時代に訪れた盛岡城跡公園など、彼の足跡と短歌を重ね合わせることで、その感性や人柄を想像しながら新聞をまとめることができた。



(4) 考察

啄木をきっかけに短歌に興味をもった子どもたちは、国語の音読活動にも意欲的に取り組むようになった。

単元名	金田一京助プロフィール表(総合的な活動の時間) 「誇り」㊦こにいる みんなと自分 大切に	学年	4 学年
-----	---	----	------

(1) ねらい

金田一京助の生涯や業績を調べ、これからの自分の生活に生かすことができる事柄をプロフィール表にまとめることができる。

(2) 指導計画 (15 時間)

段階 (時数)	学習内容
調べる計画を立てる。 (2 時間)	オリエンテーションで金田一京助について知っていることを出し合い、交流する。
課題設定・探究活動 (8 時間)	金田一京助について調べる。自分と重ね合わせ、自分に生かすことができることを考える。
発信活動 (5 時間)	調べたことや考えたことをプロフィール表にまとめ、交流会を行う。

(3) 活動の様子

金田一京助が、アイヌ語を研究した人物で国語辞典の編纂にも関わった人物だということを子どもたちはほとんど知らなかったので、インターネットや図書資料を調べ進める中でたくさんの驚きや発見があった。また、啄木と交友関係あったことから先人同士の関わりに興味をもった子もいた。

(4) 考察

国語辞典との関わりから、国語科との関連も深めることができた。また、「一筆啓上」への取り組みを通して、親子で、金田一京助への思いを共有することができた。ただし、調べ活動で、児童が知りたいことが分かりやすく適切に書かれた資料が少なかった。

単元名	新渡戸稲造プレゼンテーション(総合的な学習の時間) 「誇り」 を つけよう 自分のよいとこ たからもの	学年	5 学年
-----	---	----	------

(1) ねらい

新渡戸稲造の生涯や業績を調べ、自分の生活と重ね合わせることで共感したことや再発見した自分のよさ、これからの自分の生活に生かすことができる事柄をプレゼンテーション資料にまとめ、発信する。

(2) 指導計画 (20 時間)

段階 (時数)	学習内容
調べる計画を立てる。(3 時間)	①オリエンテーション 「盛岡の先人たち」新渡戸稲造の紹介。 ②「盛岡の先人たち」を読んで心に残ったことを話し合う。 ③新渡戸稲造の業績や生き方について、調べ、自分と重ね合わせて、共感したことや自分の生活に生かすことができる事柄をプレゼンテーション資料にまとめて発信することを確認する。
課題設定・探究活動 (10 時間)  表現感謝集会の発表 (10 月 19 日)  先人記念館見学 (11 月 19 日)	①「盛岡の先人たち」を読んで心に残ったことの中から、表現感謝集会 (学習発表会) で発表したいことを考える。 ②表現感謝集会に向けて、発表の準備を行う。(セリフ分担) ③発表の練習 (場面毎にグループを作り、グループ練習を行う。) ④発表の練習 (男女に分かれて練習を行う。) ⑤ふれあい集会 (校内発表) で発表 ⑥表現感謝集会直前練習 (思いを伝えるための手立てを再考する。) ⑦表現感謝集会 (学習発表会) 発表 ⑧自分がさらに掘り下げたい課題について調べる。 ※先人記念館見学 ⑨調べ活動 (年表から出来事の意味を考える。) ⑩調べ活動 (名言から新渡戸稲造の人柄や考え方をまとめる。)
発信活動 (8 時間)	①パワーポイントを使って、6 年生にプレゼンテーションをする資料の準備をする。 ②パワーポイント資料作り ③パワーポイント資料作り ④パワーポイント資料作り ⑤学級内で発表練習を行い、お互いに調べたことが分かりやすく伝わるか検討会を行う。 ⑥6 年生へのプレゼンテーションを行い、どのプレゼンテーションが分かりやすかったか、意見を聞く。 ⑦6 年生の意見を基に、プレゼンテーションの代表を決め、今度は、他県の 5 年生児童に、自分たちの活動について紹介する準備をする。 ⑧他県の 5 年生児童に、プレゼンテーションを行う。また、活動の振り返りを行う。

(3) 活動の様子

- ・「盛岡の先人たち」に載っている新渡戸稲造の子供の頃のエピソードに子どもたちは興味をもち、ぜひ、お家の方々の前で発表したいという意欲をもってくれた。もちろん、大人になってからのエピソードには目を見張るものがあるが、子どもの頃は、誰しも失敗や悔しい思いがあるのだということが、共感と呼んだ。
- ・子どもたちが共感した部分はさらに、失敗や苦難を乗り越える稲造の芯の強さである。絶対に弱いものをいじめないところや、自分が好きなことや得意なことについてはほとんどんやる、あきらめない心が必要だということに、同じ盛岡人としての「誇り」を感じたという感想が多くあった。
- ・最大の関心はやはり「太平洋のかけ橋」となったことである。小さい頃から得意だった英語を生かして自分の道を切り開いたこと、父や祖父の生き様をリスペクトして、農業を足掛かりに世界各地で最先端の研究を行ったこと、そして、世界に飛び出したからこそ分かった、日本という国の世界における認識の低さ、そこから日本のよさを紹介したいと考えた。日本も世界の国々と同じように評価されてほしいという願いを「武士道」という本を通して世界中に伝えたことが、子どもたちの稲造に感じる「誇り」とプレゼンでまとめている。
- ・国際連盟に関わるようになってからは、「平和」の大切さを広めようと尽力したところも「誇り」を感じる点であり、最後まであきらめずに世界中で講演して回ったことが今の時代につながっていると感じる子が多くいた。

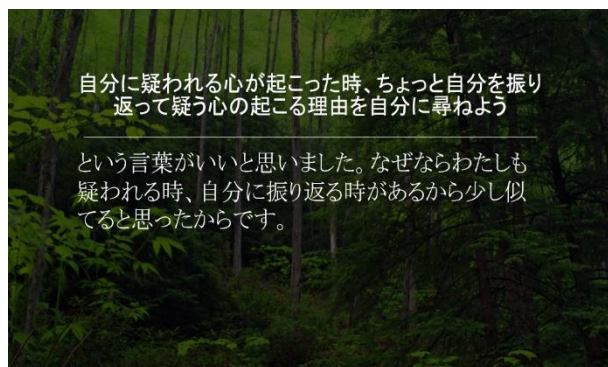


(先人記念館見学の様子)

- ・パワーポイントでプレゼンテーション資料を作成する際には、端的に伝えたい事柄をまとめなければならぬので、自分がどんな生き方や名言に共感したかを、短い言葉にまとめることに苦労していた。しかし、まとめ方を試行錯誤しているうちに、自分のよさや得意なこと、将来の夢や目標が見えてきたという子もいた。

(4) 考察

子どもたちがこの学習の最初に新渡戸稲造に抱いていたイメージは、先人というより偉人である。自分とはかけ離れた人生を歩んだ人、という認識だった。しかし、学習を進めるにつれて、自分とそう変わらない子供時代をすごし、自分よりも苦難の多い学生時代を経て、最愛の母を看取れず、悲しい時代があり、それでも夢や希望を見失わないで生きた人だったのだと分かって、身近な存在に変わっていった様子が見られた。さらに、稲造の年表のさまざまな場面から、共感できる部分や、これからの目標にしたい姿を見つけて、資料にまとめることができた。



やろうとする意志の深さよりも意志の方向を自分に問え。

自分は、発表などするときは、やり切りたいという気持ちがたくさんあって、自分はこれでもいいけど、自分にちゃんと、これでいいかと、しっかり聞くことがなかったから、とても勉強になった名言でした。



(プレゼンテーション資料)

単元名	郷土の先人たちとわたしたち 原敬・米内光政新聞 (総合的な活動の時間) 「夢」㊟くひょうを かかげてめざす ぼくの夢	学年	6 学年
-----	--	----	------

(1) ねらい

原敬や米内光政の生涯や業績を調べ、これからの自分の生活に生かすことができる事柄を新聞にまとめることができる。

(2) 指導計画 (10 時間)

段階 (時数)	学習内容
調べる計画を立てる。 (2 時間)	オリエンテーション、原敬や米内光政について知っていることを出し合い、交流する。
課題設定・探究活動 (5 時間)	原敬や米内光政について調べる。自分と重ね合わせ、自分に生かすことができることを考える。
発信活動 (3 時間)	調べたことや考えたことを新聞にまとめ、交流会を行う。

(3) 活動の様子

原敬や米内光政は、政治に大きく関わりがあった人物たちである。社会科の歴史や政治を学習している 6 年生にとっては、時代の流れとともに、二人の功績が後の世の中にどのような思想や影響を与えたのかが分かりやすい。どちらの人物も平和に対しての思いが強く、今の時代にもし、二人が生きていたら、という想像も巡らせて、新聞をまとめることができた。

(4) 考察

盛岡が輩出した政治家である。戦争に関わる重大な決断を多く迫られた二人だが、共通するのは「平和」への思いである。また、教育の面でも、今の自分たちにはかなり影響を及ぼしている。自分たちが使っている漢字も、昔はもっと画数が多くて大変だったところを、原さんが書きやすくしてくれた、といったエピソードを調べ出し、身近に感じられずにはいられないという感想があった。同じ盛岡に生きた二人が、世界を相手にどのような施策を繰り広げたかを考え、自分だったら、この時代だったらと、思いを巡らせて新聞を書いていた。自分の人生には直接関わりのない政治の世界であっても、自分の考えや生き方がこれから、中学校に進学する 6 年生にとっては、大きな決断やステップという意味で、自分と重ね合わせて考えている子もいた。「夢」に向かって突き進んだ二人の生き方に、これから新しいステージに向かう 6 年生が生き方を重ねて、共感した部分を書く学習は先人教育の目標に合致しているといえる。

5 成果と課題

(1) 成果

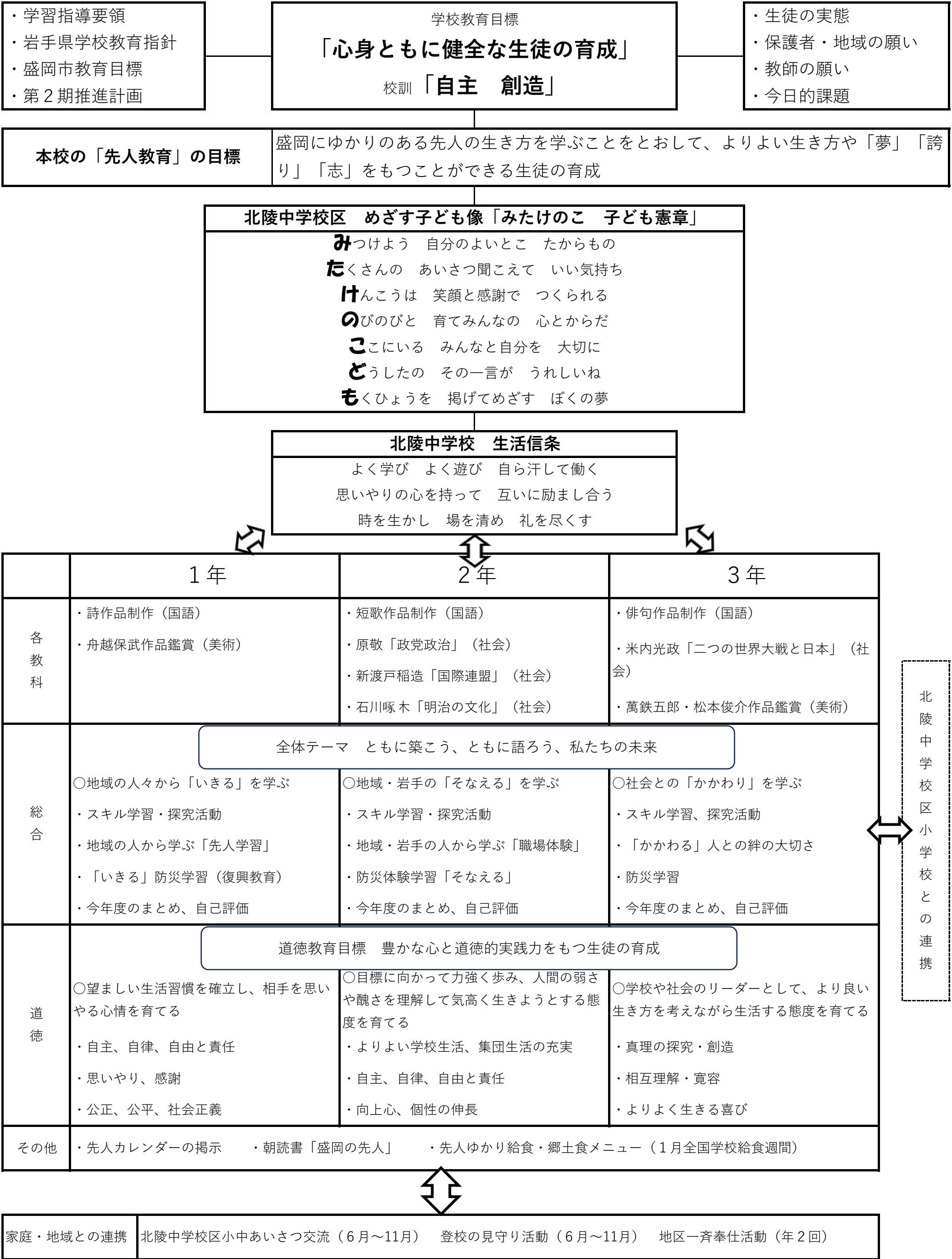
- ・教科横断的に先人学習に取り組み、深めることができた。特に、国語科や社会科との関連事項が多く、既習事項だけでなく補足事項も学ぶことができた。
- ・先人たちが共通してもつ、夢や目標をあきらめない心を、学習を通して知ることができた。そのことで、同郷の先人を身近に感じたり、誇りに思ったりできるようになった。
- ・北陵中学校区の連携事項として、「みたけのこ 子ども憲章」を学習に位置付けることにより、学習のゴールが明確になり、系統性をもって先人教育を進めることができた。

(2) 課題

- ・今回、先人担当者会議を経て、「みたけのこ 子ども憲章」を学習に位置付けたが、これから小中学校の連携をさらに行い、新しい先人教育の整備を行うことが必要だと考える。
- ・総合的な学習の時間では、先人教育においても、魅力的な単元の導入が必要になるので、学校全体で教材の開発が必要である。

令和6年度「先人教育」全体計画

盛岡市立北陵中学校



学 校 名	盛岡市立北陵中学校	児童・生徒数	420 名
研究主題	盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことをとおして、 よりよい生き方や『夢』『誇り』『志』をもつことができる生徒の育成 ～「みたけのこ 子ども憲章」の実現を目指して～		

1 研究主題設定の理由

盛岡市では「多くの先人を育ててきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人」を目指す市民像としてあげており、それを実現するため5つの施策を掲げている。

その施策の第一に「子どもの教育の充実」が掲げられ、「子ども一人一人の個性を生かし、学力を定着させ、生きる力を育むことができるように、学校や家庭、地域などが連携しながら、子どもの教育の充実と健全な育成を図る」ことを基本的方向性としている。さらにその重点項目の第一として、「先人教育の推進」をあげており、盛岡市の学校教育における重要な役割として「先人教育」が位置づけられていることが分かる。

そこで本校の先人教育では、「盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことをとおして、よりよい生き方や『夢』『誇り』『志』をもつことができる生徒の育成」を目標とした。それと共に、平成28年11月22日に北陵中学校区小中一貫教育研究推進委員会で制定した「みたけのこ 子ども憲章」の実現が、本校の先人教育の目標達成に合致すると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

- (1) 盛岡の先人の生き方や作品を改めて学ぶことをとおして、よりよい生き方について主体的に考える生徒を育成する。
- (2) 盛岡の先人の生き方や作品を教科横断的にいろいろな教科で取り入れ、自らの生き方についてどうあるべきか考える機会を増やす。
- (3) これまでの北陵中学校区の先人教育について振り返るとともに、今年度の生徒の評価を活かして、次年度以降の北陵中学校区の先人教育を検討する。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

これまで本校で取り組んできた実践を継続しつつ、今年度は以下を重点として取り組んだ。

- ・先人学習探求旅行を計画・実施し、盛岡の先人の生き方や作品を改めて学び、よい良い生き方について考える。
- ・道徳の授業において、より高い目標の設定と達成を目指す生徒の育成を目指して、先人教育を取り入れる。
- ・先人ゆかり給食の機会をとらえて、先人に対する意識の啓発と学習に努める。
- ・北陵中学校区での小中9年間の系統性な指導の再確認とともに、確かな実践の推進を行う。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・担当者会議を行い、北陵中学校区の先人教育の方向性を確認する。
- ・小学校3校と中学校1校の実践内容をもとに、先人教育の全体計画・年間計画の改善を図る。

4 取組の概要

単元名	先人学習探求旅行 みつけよう 自分のよいところ たからもの	学年	1 学年
-----	----------------------------------	----	------

(1) ねらい

- ・郷土盛岡は、平民宰相原敬や国際連盟で活躍した新渡戸稲造、歌人石川啄木、言語学者金田一京助等偉人が多いところである。その先人の業績を学び、郷土の良さを発見し、盛岡に住む自分はどう生きていけばよいのか、自らの生き方について考えを深める。

- ・挨拶、言葉遣い、見学のマナーなど公共施設の利用のしかたを身に付け、一人一人が自分の責任を果たし、集団行動の際のルールや時間を守ることの大切さなどを学ぶ。

(2) 指導計画

段 階	学 習 活 動 等
事 前	○ガイダンス・オリエンテーション（総合的な学習の時間） ○「盛岡の先人」の読書（朝読書）
当 日	○先人記念館、原敬記念館、岩手県立美術館、もりおか歴史文化館訪問
事 後	○学習のまとめ ○ロイロノートを利用した発表交流会

(3) 活動の様子

1 学年では総合的な学習として、「郷土の良さを発見する」「自分の生き方について考える」をテーマに学習を進めた。生徒たちが住んでいる盛岡に、ゆかりのある先人たちの生き方や業績をグループごとに調べ、それらをまとめたものをクラス内で発表する交流会を行った。

事前学習として、学年全体でガイダンス・オリエンテーションを行い、訪問の際の見学のマナーや注意点を確認するとともに、調べたことをしおりに書き留めておくことや、まとめの方法などについて全体指導を実施した。その後の朝読書では、「盛岡の先人」を利用して、グループで調べる先人だけでなく、いろいろな先人の生き方に触れ、先人学習に対する意欲を喚起した。

訪問当日は天候にも恵まれ、生徒たちはグループの発表をより良いものにしようと、積極的に学習するとともに、先人たちの今まで知らなかった一面に触れ、新たな思いをもった生徒の様子も見られた。また、資料を「読む」だけではなく、実際に学芸員の方から「聞く」ことでさらに理解が深まることを体験できた。



訪問後は、タブレット端末を利用して、ロイロノートの共有ノートの機能を使い、まとめのカードをグループで共同編集した。先人学習探求旅行のまとめとして、そのカードを利用して、クラス内で発表交流会を行い、その中で先人に対する新たな学びを得た生徒も見られた。

実際に行ってさらに深めた
新しく知ったこと！

- ・米内光政は、身長が176cmで高身長、モテたらしい！
- ・米内光政は、習字をやっていたから、字がとても上手
- ・米内光政は、死ぬ前にワインを飲んだ。
- ・三国同盟反対！

【まとめ】

私は、原敬さんの生き方、考え方を学んで「たとえ敵同士でも互いの心を傷つけない」「公共の利益を大切にする」という考え方が当時から今も重要だったと感じる。それが多くの人に伝わったから支持されたのだと感じた。

(4) 考察

- 現代まで功績を残している先人たちの生き方を改めて学び、その偉大さと思いにも触れることで自分の生き方について考えることができた。
- グループで調べることによって、一人一人の先人について深く学ぶことができるとともに、他のグループが調べた先人について興味をもつことができた。

- 学習のまとめである発表交流会を行うために、タブレット端末を利用し、グループごとに工夫して発表づくりに取り組むことができた。
- ▲まとめで準備した発表カードの内容が、先人に関する資料や書物、ネット等からの引用が多く見られた。学んだ史実や功績に対する生徒の意見や新たな疑問などを発表できるよう指導していきたい。
- ▲先人教育は、小学校でも取り組んでおり、中学校としての先人教育の明確な視点を与えることでより効果的な学習につながったのではないかという課題が残った。

単元名	「盛岡の先人」を取り入れた道徳の授業 もくひょうを 掲げてめざす ぼくの夢	学年	2 学年
-----	--	----	------

(1) ねらい

目標の達成を目指し、前向きな考えをもち、よりよく生きようとする実践意欲を高める。

(2) 指導計画

- ① 自分の目標を達成するために、強い意志をもつことが大切であることへの考えを深めたか。
- ② 相手の気持ちを考えて行動することが、相手だけでなく自分にとっても幸せにつながることに気付いたか。

(3) 展開案

段階	学習活動と予想される生徒の反応（・）	指導上の留意点（◇評価）
導入 5分	1. 課題について意識を高める。 ①金田一京助と石川啄木の写真を見て、今から約 160 年前のことを知る。 ・ 2 人は同じ年代を生きた人物である。 ②アイヌ語の研究が難しかったことを知る。 ・ 苦労しながらもアイヌ語の研究に取り組んだ。	○生徒の困難な体験を想起させるなどして、金田一の気持ちが理解できるようにつなげる。
展開 38分	2. 教材「アイヌ語との出会い」「二度目の調査」「啄木の面倒を見る」を読み、金田一の言動について話し合う。 ①金田一が「この道がけっして一筋縄ではいかない」と感じたのはなぜでしょう。 ・ ユーカラの文法や辞典がまだこの日本になかったからさっぱりわからない。 ②金田一のどのようなところが村の人との垣根を取り除いたのでしょう。 ・ 言葉が通じなくても、何度も挑戦するところ。 ・ 子どもであっても分け隔てなく接するところ。 ・ 相手の文化を大切に思うところ。 3. 誠実に意欲的に取り組むとはどういうことなのか考える。 ③金田一は何度も苦しい状況に陥りながらも、諦めずに村の人の協力を得て、アイヌ語の研究を続けられたのはなぜでしょう。 ・ ユーカラを筆記しなかったら、この世の中から消えてしまうという使命感から。 ・ アイヌの文化を大切に思ったから。 ④次の問いについて考え、答えましょう。 ⑦これまでに挑戦してやり遂げたことや自分なりに努力したこと、頑張れたと思えたことにはどんなことがありますか。 ⑧これまでに人に喜んでもらえたこと、ほめてもらったことにはどんなことがありますか。	○誰も達成したことがないことに挑戦しようとしている金田一の思いをはっきりさせる。 ○人の気持ちを動かすものは、熱意や信念だという事を理解させる。 ◇自分の目標を達成するために、強い意志をもつことが大切であることへの考えを深めたか。（発言、観察） ○アイヌ語を学ぶことで、日本語の起源を考えることにつながることを伝え、アイヌ問題の解決は日本の学者の責任であると説明したことを理解させる。 ○お互いの立場を知ることが、多面的・多角的に考えることの第一歩であるので、相手が何を思っているのか、相手の気持ちをおもひかきかき話し合いとなるように導く。

終 末 7 分	4. 相手も自分も気分がよい言動ができたことを出し合う。 ①自分の思いだけでなく、相手の思いも尊重して、誠実にかつ、意欲的に取り組めた経験を思い出し発表する。	◇相手の気持ちを考えて行動することが、相手だけでなく自分にとっても幸せにつながることに気付いたか。(発言)
------------------	--	---

(4) 授業の様子



(5) 生徒の感想

- ・金田一京助のように目標を作って達成できるようにしたいと思いました。途中であきらめずに、「夢」ではなく、「目標」としてやり遂げることがすごいいました。
- ・金田一京助の生き方について改めて考えて、諦めない気持ちと人柄が実を結んだと思いました。頑張っている人を見て声をかけながら、自分も負けずに夢を追い続けたいと思いました。
- ・どんな大変な状況でも、最後まであきらめずに頑張る続けることの大切さを学べたし、尊敬する部分などが出てきたので、自分もこういう生き方ができる人になりたいと思いました。
- ・「努力はいつか実を結ぶ」「結果はあとからついてくる」ということを改めて感じた。自分も前向きに、何事にも突き進む精神を大事にして生きていきたい。
- ・周りの目を気にしないで、自分の気持ちに素直に頑張ろうと思いました。人にもっと親切にしていこうと思いました。

(6) 考察

- 盛岡の先人の生き方を通して、道徳的価値にせまることで、これまで以上により自分事として捉えることができた生徒が多かった。
- 今後も盛岡の先人の教材研究を重ねていくことで、先人教育の推進と共に、先人教育の教材が蓄積されていき、今後の先人教育の継続も期待される。
- ▲盛岡の先人をふまえた教材研究につながるものの、道徳的価値をしっかりととらえた授業になっているかは検討が必要である。
- ▲今回は先人教育担当が作成した展開案を先生方に実践していただいたため、かなり窮屈な授業展開となった。事前に指導案検討会を行うことでより効果的な実践となるはずである。

単元名	朝読書における取組 のびのびと 育てみんなの 心とからだ	学年	全学年
-----	---------------------------------	----	-----

(1) ねらい

- ・副読本「盛岡の先人」の読書をとおして、先人の生き方や思いを知り、自分の生き方について考える。
- ・先人ゆかり給食に合わせて、その先人に関わる読書に取り組むことで、先人教育に対する意欲を喚起する。

(2) 指導計画

期 日	学 習 内 容 等
5 月	新渡戸稲造について（ビクトリア給食）
10 月	金田一京助について（先人ゆかり給食）

(3) 活動の様子

先人ゆかり給食にちなんで、全校で朝読書の時間に、副読本「盛岡の先人」改訂版の読書を計画した。

10月の先人ゆかり給食では、下のようなプリントを準備し、実施することができた。読書感想文とならないよう、本校先人教育の目標を示すとともに、『より良い生き方』『夢』『誇り』『志』について学んだこと」という視点を明示して、書くよう指導した。それと共に給食メニューを紹介し、そのメニューについても感じたことを記入させた。生徒が学んだことは、通信を作成し全校生徒に配付した。



盛岡の先人に学ぼう～金田一京助～	
<北陵中学校「先人教育」の目標> 盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことをとおして、より良い生き方や「夢」「誇り」「志」をもつことができる生徒の育成	
1 金田一京助の生き方を読んで、『より良い生き方』や『夢』『誇り』『志』について学んだことを書きましょう。	
2 10月1日（火）に「先人ゆかり給食～アイヌの心へ続く道 金田一京助ゆかり給食～」が実施されます。金田一ゆかりのメニューは次の通りです。	
雑穀ご飯（アママム）	アイヌ語でコメや穀物のことを「アママム」と言います。岩手県産ひえ、きびを混ぜた雑穀ご飯です。
鮭の塩焼き（カムイチェフの塩焼き）	金田一が好きだった鮭は、アイヌの人々にとっても貴重なたんぱく源でした。鮭はアイヌ語で「カムイチェフ」と言い、「神の魚」という意味があるそうです。神からの授けものとして、特別な食べ物とされてきました。
揚げ豆腐のきのこあんかけ	豆腐は金田一の一番の好物！きのこ狩りをするほどきのこも好きだったことから、揚げ豆腐にきのこあんをかけました。
トウモロコシと豆の煮もの（ラタシケフ）	「ラタシケフ」とは、山菜や野菜、豆類などを混ぜ合わせて煮るアイヌ料理です。日常食として食べたり、祭事のごちそうとして作られたりします。
茎わかめのきんぴら炒め	アイヌの人々は、海藻を見沢山な汁物にして食べていたそうです。給食では、三陸産の茎わかめを使ったきんぴらにしました。よく噛んで食べましょう。
3 金田一京助の生き方を読んだ上で、2のメニューについて感じたことを書きましょう。	
年	組
番	氏名

先人から学ぶ	
～盛岡の子供たちに「夢」と「誇り」を「志」を～	
先人教育通信 第3号 10月11日	
何事にもくじけず全うすることの大切さ ～金田一京助～	
今号をもって、金田一京助の生き方を読んで、『より良い生き方』や『夢』『誇り』『志』について学んだことの紹介は終わりとなります。他の生徒の考えにも触れることで、新しいことを学ぶきっかけとなつてほしい。今号は人生で初めての大きな選択を控えた3年生の学んだことを紹介します	
行動力があり、悲しいことがあっても、その取り組みを続け、人のために尽力した強い気持ちを見習いたいと思いました。人のために何かを考えて行動できる人になりたいです。	
生活が苦しい中でも、諦めない気持ちを大切に一生懸命アイヌ研究に取り組み姿に心が動かされました。いま受験生の自分にも重なる場面があるので、目標に向かって努力を積みかさねていきたいです。	
金になる・ならないではなく、自分がやりたいと思ったこと、やるべきと思ったことを諦めない気持ちが「誇り」だと思いました。「夢を諦めなかったからこそ成功」がとても伝わってきました。	
自分の夢などに向かっていく生き方が学べた。何事にも諦めず、めげないで取り組む大切さがわかった。自分も金田一京助のようにだれか人のためになれるような人になりたい。	
志を持ちつづけて行動すれば、少なからずどこかに新しい風を吹かせられるのではないかと思います。可能性は無限になると思うので、自分に、自分の生き方に誇りを持ちたい。	
すぐ意志が強く、夢に向かって一歩一歩進んでいける人なのだと思います。自分が成し遂げたことに誇りを持てるようになります。自分も心が折れそうになっても頑張ってみようと思いました。	
国語の辞典を細読した楽しさは共感できました。僕も小学生のとき、楽しんでいて記憶があります。何事にもくじけず全うしている京助さんを尊敬できます。僕もくじけず今後頑張っていきたいです。	
京助の生涯の終え方を知って、改めて他人への思いやりや何事もあきらめず全うすることの大切さを学んだ。京助の生き方を読んで学んだことを自分の将来に活かしたい。	
自分の研究のことだけでなく、周りの人への感謝や日々の生活態度など日常生活の中で、徳を積んでいることが夢の実現につながったんだと思いました。	
つらいことがあっても研究を諦めない金田一京助はアイヌ語への思いが強いと思いました。夢をもって生きることは大切なことだと思いました。	
初期のアイヌ語調査では全く言葉が通じない絶望的な状況の中、知恵をたからせて未知の民族とつながることができた金田一の行動力と、誰とでも分け隔てなく接する勇氣に感動を受けるとともに、私も日々の生活でこれを意識して生活していきたいと思いました。	
今号の言葉：夢もまた人生の一部である。夢のない人生はない。（新渡戸稲造）	

(4) 生徒の感想

- ・アイヌ語の研究を続けるという強い意志で生涯をひとつのことに打ち込むという生き方には見習うものがあると思った。
- ・いろいろな人に支えてもらいながら、決して夢をあきらめずがんばっているところがすごかった。
- ・やり続けたのがすごいいし、周りの人達も応援して素敵だと思った。夢を追って頑張る人を応援できるようになりたい。
- ・アイヌの間違いの辞典を見て、すぐに決心し行動した金田一さんのように、決心したら行動したいと思いました。
- ・京助の生涯の終え方を知って、改めて他人への思いやりや、何事もあきらめず全うすることの大切さを学んだ。
- ・アイヌ語研究でも強い意志を持って追求したと分かりました。夢をもって成し遂げる人の偉大さを感じました。

(5) 考察

- 『より良い生き方』『夢』『誇り』『志』について学んだこと」という視点を明示したことにより、単なる読んだ感想ではなく自分の生き方について考えることができた。

- 生徒たちが自分の生き方について考えたものの一部を先人教育通信で全校に示すことで、他の生徒の考えから自分の生き方について改めて考える機会となった。
- ▲視点を明示したものの、先人たちの成果・功績にのみ注目した感想や、副読本からの抜出となってしまう感想も見られ、自分の生き方と関連付けて考えられない生徒も見られた。
- ▲ランチボックス給食を採用しているため、せっかくの先人ゆかり給食ではあるが、全員が食べることができず、全体に対する一層の意欲の喚起には至らなかった。

単元名	北陵中学校区小中学校先人教育担当者会議	学年	—
-----	---------------------	----	---

(1) ねらい

- ・コロナ禍等の影響のため、先人教育等の交流が疎遠になっていた小中学校担当者を一堂に会し、各校の今年度計画を確認する。
- ・各校の今年度反省並びに来年度計画を持ち寄り、北陵中学校区の来年度の方向性を模索する。

(2) 指導計画

期 日	学 習 内 容 等
10 月	各校の先人教育の今年度計画の確認
2 月	各校の先人教育の今年度振り返りと北陵中学校区の来年度の方向性について

(3) 活動の様子

中学校区での発表となることから、中学校の担当者から10月初めにそれぞれの小学校にメールにて会議可能日程を伺い、4校の担当者全員が集まる日を調整した。

会議では各校の先人教育の今年度計画を確認するとともに、市教研教育研究所発表についても話題となった。



(4) 考察

- これまで集まることができなかったため、各校で進めてきていた先人教育を、北陵中学校区としてどのように進めていくのかを考える良い機会となった。
- 今回の発表についても、北陵中学校区の小・中学校として、統一感を出せるよう各校の担当者と話し合い、方向性をまとめることができた。
- ▲4校の先人教育の全体計画と年間計画がそれぞれで設定されており、中学校区としての9年間の全体計画や年間計画を立案することが難しい。
- ▲さらに、それぞれの学校の中でも、学年や教科を横断した先人教育が計画されているため、系統的な先人教育を実践するには、これまで以上に綿密な調整が必要である。

5 成果と課題

(1) 生徒アンケート結果

① 肯定的回答の割合 (%)

	3 学年	2 学年	1 学年
あなたは、将来の夢や目標を持っていますか。	85 ↑ 77	72 ↑ 69	78 ↓ 84
自分には、よいところがあると思いますか。	83 ↓ 86	85 ↑ 83	82 ↑ 76
人が困っているときは、進んで助けようと思いますか。	97 ↑ 94	98 → 97	98 → 99
自分の住む地域には、よいところがあると思いますか。	94 データなし	91 ↑ 84	90 ↓ 94

(下段：3年全国学調、2年県学調、1年新入生学調の生徒質問紙、上段：11月中旬アンケート)

② 生徒の感想（今年度の「先人教育」の感想を自由に書いてください）

ア 1 学年

- ・先人について色々なことが知れてよかった。この先人たちのように人の役立つことを少しでもやりたい。
- ・先人たちは皆さん1つの目標や夢に向かっていろいろなことに挑戦したり、叶えるための努力をしたりしていて、尊敬するなあ、と思いました。
- ・先人学習をやってみて、盛岡の先人のことをたくさん知ることができたので良かった。これから、私が生きていくうえでこういう人の生き方を少し参考にしたいと思った。

イ 2 学年

- ・先人たちが行ったことによって今があると考ええると、すごいことだと思った。たくさん参考になる考えがあるので、参考にしていきたいと思った。
- ・今回の先人教育で私は、最後までやり遂げると決めたことに途中であきらめない信念を学ぶことができました。私もまだおぼろげではありますが目標はあるので、それに向かってどう道を切り開こうかはよく考えてから成し遂げたいと思いました。
- ・盛岡の先人を読んで、目標のために努力することはとても大切なのだなと思いました。たとえつらいことがあっても、屈せずに努力をすれば夢をかなえられるかもしれないということも教わりました。

ウ 3 学年

- ・「盛岡の先人」の、特に金田一京助の人生について読んで、自分も人のためになる仕事をしようと思いました。
- ・ひたすらに夢を追いかけ、夢のために最大限の努力をする姿がとても輝いていて、私もそうありたいなと憧れました。
- ・岩手の先人のことや歴史を学ぶことによって、先人の成功談や歴史上の失敗談を学び、自分たちの作っていく世界をさらによりよいものにしていけるようになりたいと思った。

(2) 成果

- ・先人教育担当者会議を行い、北陵中学校区の小中学校で実践されてきた先人教育について、確認・交流する機会を設けることができた。
- ・今回発表した道徳の他にも国語や社会、美術、また朝読書や食育を通して、教科横断的に先人学習に取り組み、深めることができた。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、肯定的回答の割合は3学年と2学年で向上が見られた。また、「自分にはよいところがあると思いますか。」の問いに対して、肯定的回答の割合は2学年と1学年で向上が見られた。
- ・「人が困っているときは、進んで助けようと思いますか。」と「自分の住む地域には、よいところがあると思いますか。」の問いに対しては、肯定的回答の割合は全学年で90%を超えた。
- ・様々な先人教育を展開することで、生徒と教職員の先人教育に対する意識の高まりが見られるとともに、生徒の感想からも先人教育を通じた変容が感じられ、目指す生徒像に近づくことができつつある。

(3) 課題

- ・北陵中学校区としての先人教育をより深めていくには、小中学校間の連携をより綿密に行い、「北陵中学校区先人教育全体計画」等の整備が課題である。
- ・教科横断的な先人学習に取り組み始めているが、学年間の交流まで至っていないので、次年度以降を意識した先人学習の交流取組を計画する。
- ・今回のアンケート結果より、肯定的回答の割合が向上した原因として、先人学習の実施があげられるが、それ以外の原因もあることが考えられ、今後も結果の検証の継続が必要である。
- ・通常の学校教育を展開していくとともに、さらに新たな取組としての先人教育を取り入れるために、教科横断的なカリキュラムマネジメントをより一層進めていかなければならない。